

MapInfo Pro

バージョン 17.0.1

インストール ガイド



目次

1 - インストールする前に

はじめに	4
要件	4
MapInfo Pro のデータベース接続とサポート	10
Microsoft Office のサポート	11
MapInfo Pro でサポートされるデータ ファイル	11
MapInfo Pro でサポートされる Web サーバ	17
MapInfo Pro をインストールする前に	17
Citrix のインストール	21

2 - MapInfo Pro のインストール

MapInfo Pro のインストール	24
データのインストール	29
関連リソースのインストール	32
MapInfo Pro の変更、または削除	32

3 - MapInfo Pro の起動とアクティベーション

所有しているライセンスの種類の確認	36
同一コンピュータ上にある MapInfo Pro の 32 ビット版と 64 ビット版のライセンス アクティベーション	37
アドバンスド ライセンス	38
マッピング サービス	39
ノード ロック ライセンス	41
同時使用ライセンス	48
配布可能ライセンス	53

付録 A: システム管理者のためのワークグループ インストール

ワークグループのインストール プロセスについて	59
ワークグループ インストールの開始(システム管理者)	60
ワークグループ インストールの終了 (MapInfo Pro ユーザ)	63

付録 B: サイレント インストール手順

システム管理者のためのサイレント インストール手順	67
サイレント インストール	69
ライセンスのサイレント アクティベーションおよびサイレント返却	71
サイレント アンインストール	74
付録 C: システム管理者のための上級者向け構成オプション	

上級者向け設定の管理	77
インストール時のアプリケーション データ ファイルの場所の管理	78
初期スタートアップ時の MapInfo Pro の設定	81
付録 D: インストールのトラブルシューティング	

インストールの問題	83
エラー メッセージ	84

1 - インストールする 前に

MapInfo® Pro は包括的なコンピュータ マッピング ツールです。これにより、領域編成、リモートデータへのアクセス、アプリケーションへのマップオブジェクトのドラッグアンドドロップ、データを効果的に表示する主題図の作成など、複雑な地理分析を行うことができます。

このマニュアルでは、MapInfo Pro をデスクトップにインストールする方法について説明します。また、IT 担当者やシステム管理者が組織内に MapInfo Pro をインストールする際に必要となる、さらに高度な使い方についても説明しています。

MapInfo Pro の操作方法については、MapInfo Pro のインストール後に『*MapInfo Pro ユーザーズガイド*』を参照してください。

このセクションの構成

はじめに	4
要件	4
MapInfo Pro のデータベース接続とサポート	10
Microsoft Office のサポート	11
MapInfo Pro でサポートされるデータ ファイル	11
MapInfo Pro でサポートされる Web サーバ	17
MapInfo Pro をインストールする前に	17
Citrix のインストール	21

はじめに

このマニュアルは、2つのパートで構成されています。前半では、MapInfo Pro をユーザのデスクトップにインストールする際に必要となる情報と手順について説明します。後半の付録では、MapInfo Pro を組織にインストールする必要がある IT 担当者やシステム管理者向けの情報と手順について説明します。

MapInfo Pro ユーザ

デスクトップに MapInfo Pro をインストールする前に、以下のセクションを参照してください。

1. システム要件
2. MapInfo Pro のデータベース接続とサポート
3. MapInfo Pro をインストールする前に

その後、「第 2 章: MapInfo Pro のインストール」の手順を実行します。

MapInfo Pro をデスクトップから削除する方法については、「MapInfo Pro の変更、または削除」を参照してください。

IT 担当者またはシステム管理者

MapInfo Pro をインストールするシステム管理者は、このマニュアルの付録を参照してください。付録には以下の情報が記載されています。

- システム管理者のためのワークグループ インストレーション
- サイレント インストール手順
- システム管理者のための上級者向け構成オプション

要件

以下に、最小システム要件と推奨システム要件のガイドラインを示します。ハードウェア要件は、使用製品およびシステムによって大きく異なります。通常、高速なプロセッサ、大容量のメモリ

(RAM)、および、高性能なグラフィック カードであるほど、快適に使用でき、MapInfo Pro からの反応も速くなります。

システム メモリ (RAM) が 4GB 未満である場合、以下のような一部の MapInfo Pro Raster ユーザ設定は使用できません。

- キャッシュ サイズ設定は変更できません ([標準] 設定のみが使用可能です)。
- ディスプレイ キャッシュ オプションは使用できません。

システム要件

この製品は、以下の Microsoft Windows デスクトップ オペレーティング システムでテストされています。

- Windows 10 (64 ビット)
- Windows 8.1 (64 ビット)
- Windows 7 Ultimate 64 ビット SP1
- Windows 2016 Server 64 ビット
- Windows 2012 Server R2 64 ビット SP1
- Windows 2012 Server R2 64 ビット (XenApp 7.5 使用)
- Windows 2008 Server R2 64 ビット SP1
- Windows 2008 Server R2 64 ビット SP1 (XenApp 6.0 使用)

Windows 10 のハードウェア要件

- Windows 10 (64 ビット)

表 1: 最小

メモリ	ハードディスクの空き領域	グラフィック	モニタ
最小 1GB、推奨 4GB の RAM (64 ビット)、 PAE、NX、および SSE2 をサポートする 1 GHz のプロセッサ	20GB (64 ビット)、データ 2.3GB 以上	Microsoft DirectX 9 グラフィック デバイスと WDDM ドライバ	1024x768 以上の解像度

表 2: 推奨システム要件

メモリ	ハードディスクの空き領域	グラフィック	モニタ
16 GB 以上の RAM (64 ビット) Intel Core 2 Duo、AMD Athlon X2 以上	25GB (64 ビット)、データ 2.3GB	専用 GPU: AMD Radeon HD 2000 シリーズ、NVIDIA GeForce 8 シリーズ以上 統合 GPU: AMD Radeon HD 3200、NVIDIA GeForce 9400、Intel HD Graphics 以上	1024x768 以上の解像度

Windows 8 のハードウェア要件

- Windows 8.1 (64 ビット)

表 3: 最小システム要件

メモリ	ハードディスクの空き領域	グラフィック	モニタ
最小 1GB、推奨 4GB の RAM (64 ビット) PAE、NX、および SSE2 をサポートする 1 GHz のプロセッサ	20GB (64 ビット)、データ 2.3GB 以上	Microsoft DirectX 9 グラフィック デバイスと WDDM ドライバ	1024x768 以上の解像度

表 4: 推奨システム要件

メモリ	ハードディスクの空き領域	グラフィック	モニタ
16 GB 以上の RAM (64 ビット) Intel Core 2 Duo、AMD Athlon X2 以上	25GB (64 ビット) データ用に 2.3 GB	専用 GPU: AMD Radeon HD 2000 シリーズ、NVIDIA GeForce 8 シリーズ以上 統合 GPU: AMD Radeon HD 3200、NVIDIA GeForce 9400、Intel HD Graphics 以上	1024x768 以上の解像度

Windows 7 のハードウェア要件

- Windows 7 Ultimate 64 ビット SP1

表 5: 最小システム要件

メモリ	ハードディスクの空き領域	グラフィック	モニタ
最小 1GB、推奨 4GB の RAM と、1GHz Pentium プロセッサ	20GB、データ 2.3GB 以上	24 ビット カラー	1024x768 以上の解像度

表 6: 推奨システム要件

メモリ	ハードディスクの空き領域	グラフィック	モニタ
16 GB 以上の RAM と 1.8 GHz 以上のプロセッサ	Fast EIDE 2 または SCSI インターフェイス、25 GB 以上。データ用に 2.3 GB	ミッド/ハイエンド クラスの 2D/3D カード、128MB 以上	1024x768 以上の解像度

Windows 2012 R2 Server のハードウェア要件

- Windows 2012 Server R2 64 ビット SP1
- Windows 2012 Server R2 64 ビット (XenApp 7.5 使用)

表 7: 最小システム要件

メモリ	ハードディスクの空き領域	グラフィック	モニタ
最小 1GB、推奨 4GB の RAM と、1.4 GHz 以上の (64 ビット) シングルコア プロセッサ、1.3 GHz 以上の (64 ビット) マルチコア プロセッサ	32 GB	Microsoft DirectX 9 グラフィック デバイスと WDDM ドライバ	Super VGA (800x600)

表 8: 推奨システム要件

メモリ	ハードディスクの空き領域	グラフィック	モニタ
16 GB 以上の RAM と、3.1 GHz 以上の (64 ビット) マルチコア プロセッサ	40 GB データ用に 2.3 GB	専用 GPU: AMD Radeon HD 2000 シリーズ、NVIDIA GeForce 8 シリーズ以上 統合 GPU: AMD Radeon HD 3200、NVIDIA GeForce 9400、Intel HD Graphics 以上	Super VGA (800x600)

Windows 2008 R2 のハードウェア要件

- Windows 2008 Server R2 64 ビット SP1
- Windows 2008 Server R2 64 ビット SP1 (XenApp 6.0 使用)

表 9: 最小システム要件

メモリ	ハードディスクの空き領域	グラフィック	モニタ
最小 1GB、推奨 4GB の RAM と、1GHz Pentium プロセッサ	20GB、データ 2.9GB 以上	24 ビット カラー	1024x768 以上の解像度

表 10: 推奨システム要件

メモリ	ハードディスクの空き領域	グラフィック	モニタ
16 GB 以上の RAM と 1.8 GHz のプロセッサに加えて、各接続ユーザをサポートするのに十分なメモリ	Fast EIDE 2 または SCSI インターフェイス、25 GB 以上。データ用に 2.3 GB。	サーバ: 同上 クライアント: 解像度/速度の要件に応じて選択	1024x768 以上の解像度

必要条件

MapInfo Pro をインストールする前に、コンピュータに最新の更新プログラムが適用されていることを確認するようお勧めします。

インストールウィザードは、以下のコンポーネントがシステムにインストールされているかどうかを調べます。インストールされていない場合は、インストールを指示するメッセージが表示されます。必要なコンポーネントをインストールウィザードからインストールするように選択することも、インストールを中断することもできます。

- Microsoft Office Access データベース エンジン 2010 (x64)

32 ビット Office 2010 ドライバがインストールされている場合はインストールされません。

- Microsoft Office Access データベース エンジン 2007 (x64)

これは、64 ビット版の 2010 ドライバがインストールされている 64 ビット オペレーティングシステムにのみインストールされます。

- Microsoft .NET Framework 4.6.1

Windows 8.1 と Windows Server 2012 R2 の場合は、Microsoft .NET Framework 4.6.1 をインストールする前に KB2919355 をインストールする必要があります。

- Microsoft Visual C++ 2015 Update 3 再頒布可能パッケージ (x64)
- Windows の修正プログラムと更新プログラム:

オペレーティング システム	必要な更新プログラム
Windows 7 および Server 2008 R2	修正プログラム KB3154529
Windows 8 および Server 2012	修正プログラム KB3154527
Windows 8.1 および Server 2012 R2	修正プログラム KB3154528
Windows 10 *	累積的な更新プログラム KB3156387

* Windows 10 上において、インストールウィザードは累積的な更新プログラムをインストールしません。このリリースをインストールする前に、この更新プログラムがインストールされていることを確認してください。

注: サポート対象外のオペレーティングシステムにインストールする場合は、これらの再頒布可能パッケージと更新プログラムの最小要件を Microsoft のウェブサイトを確認してください。

MapInfo Pro は Microsoft Windows Presentation Foundation (WPF) ツールキットから WPFToolkit.dll (バージョン 3.5) をインストールします。これはメタデータ カタログ ブラウザ機能に必要なファイルです。

Windows 8.1 および Server 2012 R2

Windows 8、8.1、Server 2012、または Server 2012 R2 の場合は、MapInfo Pro をインストールする前に Microsoft 更新プログラム 1 (KB2919355) をインストールする必要があります。この更新プログラムは、<https://support.microsoft.com/en-us/kb/2919355> で入手できます。この更新プログラムのインストール後に、コンピュータの再起動が必要になる場合があります。

MapInfo Pro のデータベース接続とサポート

MapInfo Pro は、以下の空間データベース サーバに対応しています。

- Microsoft SQL Server 2017 (SQL Server Spatial と呼ばれる)
- Microsoft SQL Server 2016 (SQL Server Spatial と呼ばれる)
- Microsoft SQL Server 2014 (SQL Server Spatial と呼ばれる)
- PostgreSQL 10.3 と PostGIS 2.4.3
- PostgreSQL 9.6.10 と PostGIS 2.4.2
- PostgreSQL 9.4.2 と PostGIS 2.1.7
- SQLite 3.8
- Oracle Spatial 12c R2
- Oracle Spatial 11g R2

MapInfo Pro がリモート データベースにアクセスするためには、クライアントまたはドライバをインストールする必要があります。MapInfo Pro は以下の ODBC ドライバをサポートしています。

- Microsoft Access ODBC
- Microsoft SQL Server 2016
- Microsoft SQL Server 2012 Native Client 11.0
- PostgreSQL Unicode ANSI ODBC ドライバ 9.06.03
- FDO ToolKit 3.8 (SQLite で使用、MapInfo Pro とともにインストール)

- Oracle Instant Client 12.2

次のアプリケーションのテーブルを開いて、マップを作成可能にすることもできます。ただし、ポイント データ用のみです。

- Microsoft Access 2010、2013、2016

リモート データベース情報の操作については、ヘルプ システムの「リモート データへのアクセス」および「データベース接続の環境設定を行う」を参照してください。

PostgreSQL ODBC ドライバには Use Declare/Fetch オプションが必要

PostgreSQL Unicode ODBC ドライバを使用する際のエラーを回避するには、[Use Declare/Fetch] オプションを有効にする必要があります。これを有効にすると、ドライバは自動的にカーソル宣言と Fetch を使用して SELECT 文を処理し、キャッシュに 100 行を保持します。これが無効の場合 (デフォルト設定)、ドライバは結果セット全体をバッファリングします。大きなテーブルの場合は、これによって Windows メモリ リソースを使い果たしてしまう可能性があります。詳細については、「[メッセージ: ODBC エラー](#)」を参照してください。

Microsoft Office のサポート

MapInfo Pro は、バージョン 2010、2013、2016 の Microsoft Excel (*.xls、*.xlsx) および Microsoft Access (*.mdb、*.accdb) 形式をサポートします。

MapInfo Pro でサポートされるデータ ファイル

MapInfo Pro の [ホーム] タブで [開く] をポイントすることにより、以下のファイル形式を開くことができます。

- ACCDB – Microsoft Access 2007 およびそれ以降のファイル
- CSV – カンマ区切りのファイル
- DBF – dBASE DBF ファイル
- MDB – Microsoft Access ファイル
- TAB – MapInfo .TAB ファイル (MapInfo Extended – Type NATIVEX を含む)
- ラスタ イメージ ファイル – (*.bil、*.sid、*.gen、*.adf、*.img、*.ntf、*.ecw、*.url、*.tif、*.grc、*.bmp、*.gif、*.tga、*.jpg、*.pcx、*.jp2、*.j2k、*.png、*.psd、*.wmf、*.emf、*.map)
- SHP – ESRI シェープファイル

- TXT – デリミタ付き ASCII ファイル
- WKS – Lotus 1-2-3 ファイル (*.wk1, *.wks, *.wk3, *.wk4)
- WOR – MapInfo ワークスペース ファイル
- MWS – MapInfo ワークスペース ファイル
- XLS – Microsoft Excel ファイル
- XLSX – Microsoft Excel 2007 およびそれ以降のファイル
- グリッド イメージ - (*.adf, *.flt, *.txt, *.asc, *.img, *.dem, *.dt0, *.dt1, *.dt2, *.mig, *.grd)このリリースは、.XLSM ファイルと .XLSB Excel ファイルに対応していません。
- GPKG – GeoPackage ファイル

注: グリッドフォーマットの直接サポート: DEM-USGS テキスト (.dem) の直接読み込みをサポートしているグリッドハンドラは、GTOPO30 (.dem) と、DTED レベル 1、2、3 (.dt0、.dt1、.dt2) です。これらのグリッドハンドラは、読み込み専用です。グリッド主題図作成の補間プロセスでは、これらのグリッドハンドラをグリッドファイルの作成に使用することはできません。

ファイル形式のインポート

ユニバーサル トランスレータを使用して、以下のファイル形式を MapInfo Pro にインポートすることができます ([ホーム] タブで [開く] をポイントし、[ユニバーサルデータ] をクリックします。[データソースの指定] ダイアログで、[ギャラリーを参照] をクリックして、[FME リーダー ギャラリー] ダイアログを開きます)。

- Autodesk AutoCAD DWG/DXF (.dxf、.dwg) — AutoCAD リリース 2013 まで
- Bentley MicroStation Design 7 (.dgn)
- Bentley MicroStation Design 8 (.pos、.fc1、.dgn)
- ESRI ArcInfo Export (.e00)
- ESRI ArcSDE
- ESRI Geodatabase (File Geodb API) (.gdb)
- ESRI Geodatabase (Personal Geodatabase) (.mdb)
- GML (Geography Markup Language) (.gml、.xml、.gz)
- Google Earth KML (.kmz、kml)
- OS MasterMap Database – Cadcorp OS MasterMap Database データをサポートします。
- OS VectorMap District – 読み取りは OS VectorMap District 形式の GML データをサポートします。
- OS VectorMap Local – 読み取りは OS VectorMap Local 形式の GML データをサポートします。
- Spatial Data Transfer Standard — TR01CATD.DDF (*CATD.DFF) など
- POAREA.AFT、POLINE.LFT、POPOINT.PFT などの Vector Product Format (VPF) カバレッジ (*.ft)

[ホーム] タブで [開く] を選択して [インポート] をポイントすることにより、以下のファイル形式を MapInfo Pro にインポートできます。

- DXF – AutoCAD、その他の CAD パッケージで使われる図形 / データ交換形式
- GML – OS MasterMap 形式
- GML、XML – Geographic Markup Language (GML) 2.1
- IMG – DOS 版 MapInfo Pro イメージ ファイルで使われるファイル形式
- MBI – MapInfo Pro Boundary Interchange 形式 (MBI)。MapInfo DOS リージョン ファイルに使われる ASCII ファイル。
- MIF – MapInfo Pro Interchange Format (MIF)。MapInfo Pro のデータ交換形式 (ASCII ファイル形式)。
- MMI – MapInfo DOS MMI

注: NIMA 形式 (ADRG、CADRG、ASRP、CIB、USRP、NITF など) のラスタハンドラは、Pitney Bowes Inc. の Web サイトからダウンロードできます (インストール DVD にも収録されています)。

MapInfo Pro は、MapInfo Pro Interchange Format、DXF、MBI、および MMI ファイルから図形 / 原データ情報をインポートします。MapInfo Pro は、IMG からは図形しかインポートしません。

サポートされるラスタ イメージ ファイル形式

MapInfo Pro でサポートされるラスタ イメージ ファイル形式は次のとおりです。

- ADF – ArcInfo カバレッジ Data File (ADF)
- ASC – ASCII テキスト ファイル
- BIL – Satellite Pour l'Observation de la Terre (SPOT) 人工衛星画像。Spot イメージ形式 1.5 および 4.0: 8 ビット グレイ、形式 1.5、8 ビット グレイ、形式 4.0、24 ビット カラー、形式 1.5、24 ビット カラー、形式 4.0
- BIP – Band Interleaved by Pixel
- BSQ – Band Sequential
- BMP – Windows ビットマップ (BMP) モノクロ: 8 ビット カラー、24 ビット カラー
- DAT – テキストまたはバイナリ形式のデータを含むデータ
- DEM – Digital Elevation Model
- DT0、DT1、DT2 – Digital Terrain Elevation Data (DTED) の Level 0、1、および 2
- ファイル名.* – Compressed ARC Digitized Raster Graphic (CADRG) 形式
- ファイル名.* – Controlled Image Base (CIB) 形式
- ECW - Enhanced Compression Wavlet (ECW) 形式ハンドラ (ER Mapper より)
- EMF – Enhanced Metafile Format
- ERS – European Remote Sensing
- FLT – Image Filter (FLT)
- GEN – ARC Digitized Raster Graphic (ADRG) 形式
- GEN – ARC Standard Raster Product to 1.2 (ASRP) 1.2 形式
- GIF – Graphics Interchange Format (GIF)

- GIF – Graphics Interchange Format (GIF89a) 非インターレースのみ モノクロ: 8 ビット カラー
- GRC – グリッド、または MapInfo Vertical Mapper
- GRD – 分類済みグリッド、または MapInfo Vertical Mapper

MapInfo Pro は GRD ファイルをグリッドまたはラスタ イメージとして処理します。関連付けられている .TAB ファイルに RasterStyle 6 のエントリが含まれている場合、該当ファイルはグリッドとして処理されます。

- IMG – ERDAS IMAGINE ファイル形式
- JFIF – JPEG File Interchange Format (JFIF)

8 ビット グレイ、24 ビット カラー、サブサンプリングなし、24 ビット カラー、YUV422 サブサンプリング、24 ビット カラー、YUV411 サブサンプリング

- JP2 – Joint Photographic Experts Group (JPEG) 2000 形式

MapInfo Pro は、[ウィンドウに名前を付けて保存] を使用した JPEG 2000 ファイルの作成と、LeadTools ラスタ ハンドラを使用した JPEG 2000 ファイルの表示をサポートします。

- JPG – Joint Photographic Experts Group (JPG)
- JPEG – Joint Photographic Experts Group (JPEG)

8 ビット グレイ、24 ビット カラー、サブサンプリングなし、24 ビット カラー、YUV422 サブサンプリング、24 ビット カラー、YUV411 サブサンプリング

- MRR – Multi-Resolution Raster
- NTF – National Imagery Transmission Format (NITF) バージョン 2.x 形式
- PCX – ZSoft Paintbrush
- PCX – Format Version 5 (Paintbrush Version 3.0)

モノクロ、8 ビット グレイ、8 ビット カラー、24 ビット カラー

- PNG – Portable Network Graphics (PNG) 形式
- PSD – Photoshop 3.0
- SID – MrSID 形式

MrSID ラスタ ハンドラを使用すると、MrSID 形式で圧縮されたラスタ イメージを開く、または表示することができます。

- TGA – Targa

TGA Truevision ファイル形式仕様 2.0.8 ビット グレイ、8 ビット カラー、24 ビット カラー

- TIF – Geographic Tagged Image File Format (GeoTIFF)
- TIF – Tagged Image File Format (TIFF)

TIFF 改訂バージョン 5.0、モノクロ (クラス B)、非圧縮、モノクロ (クラス B)、PackBits 圧縮、8 ビット グレイ (クラス G)、非圧縮、8 ビット カラー (クラス P)、非圧縮、24 ビット カラー (クラス R)、非圧縮

- TIF – Tagged Image File Format (TIFF) CMYK
- TIF – Tagged Information File Format (TIFF) CCITT Group 4
- TIF – Tagged Information File Format (TIFF) LZW
- TXT – テキスト
- URL – Uniform Resource Locator
- VRT – Virtual Format
- WMF – Windows Metafile Format (WMF)

このラスタ ハンドラは、WMF ファイルをラスタ化したものを読み込みます。

- ZIP – ラスタ形式のファイルを格納した圧縮ファイル

MapInfo Pro でサポートされるファイル形式の制限事項

これらの MapInfo サポート形式を操作する際は、以下の注意事項を念頭に置いてください。

- MapInfo Pro は、リリース 13 までの DXF ファイルのインポートのみをサポートします。[ホーム] タブで [開く] をポイントし、[インポート] をクリックします。この機能は、ユニバーサル トランスレータと [ユニバーサル データを開く] の機能に置き換えられました。
- [ユニバーサル データを開く] 機能は、AutoCAD リリース 2013 までのすべての DWG および DXF 形式をサポートします。弊社では、新しいリリースの FME に常に対応するように努めていますが、弊社が製品をアップグレードする前に新しいバージョンの FME を使って AutoCAD DWG および DXF ファイルをインポートする機能をアプリケーションに追加した場合、エラーが発生することがあります。
- HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\MapInfo\MapInfo\Common Max Files レジストリ キーを削除した場合、MapInfo Pro で最大 500 個のファイルを同時に開くことができます。
- 最大で 125 のファイルを MapInfo Pro に同時に開いて編集することができます。

Feature Manipulation Engine (FME) 形式のサポート

MapInfo Pro をインストールすると、Feature Manipulation Engine (FME) 2018 もインストールされます。FME ではデータを直接開くことができます。データを個別に変換して、データの .TAB 形式のコピーを操作する必要はありません。FME では、以下のユニバーサルデータ形式を開くことができます。

- Autodesk AutoCAD DWG/DXF – AutoCAD ファイルをバージョン 2013 までサポートします。

- Bentley MicroStation Design (V7) – Intergraph Standard File Format (ISFF) Version 7 をサポートします。
- Bentley MicroStation Design (V8) – Intergraph Standard File Format (ISFF) Version 8 をサポートします。
- ESRI ArcInfo Export (.e00) – ArcGIS 10.x をサポートします。
- ESRI ArcSDE – ArcSDE 10.x をサポートします。
- ESRI Geodatabase (File Geodatabase API) - File Geodatabases バージョン 10.0 以上をサポートします。
- ESRI Geodatabase (Personal Geodatabase) – ArcGIS 10.x をサポートします。
- ESRI Shape ファイル (*.SHZ、*.SHP)
- Geography Markup Language (GML) - 読み取りは GML バージョン 2.1.2、3.1.1、3.2.1、書き込みは GML バージョン 3.1.1、3.2.1 をサポートします。
- Google KML – KML 2.2 をサポートします。
- OS MasterMap Database – Cadcorp OS MasterMap Database データをサポートします。
- OS VectorMap District – 読み取りは OS VectorMap District 形式の GML データをサポートします。
- OS VectorMap Local – 読み取りは OS VectorMap Local 形式の GML データをサポートします。
- Spatial Data Transfer Standard (SDTS) - SDTS Topological Vector Profile (TVP) に準拠する USGS DLG データセットと、SDTS Raster Profile に準拠する USGS Digital Elevation Model (DEM) データセットをサポートします。
- Vector Product Format (VPF) Coverage - Military Standard, Vector Product Format, MIL-STD-2407 に記載された構造で格納された VPF データをサポートします。

注: MapInfo Pro と一緒にインストールされる FME はサブセットです。サポートしている形式が一部に限られています。Safe Software の FME Suite の完全版をインストールすると、他の形式にも対応でき、MapInfo Pro と組み合わせて使用できます。詳細については、「[FME Suite を使った作業](#)」を参照してください。FME Suite がサポートしている形式の一覧については、http://docs.safe.com/fme/html/FME_Desktop_Documentation/FME_ReadersWriters/Format-List-All.htm を参照してください。

MapInfo Pro でこれらのデータ形式を開くには、[ホーム] タブで [開く] をポイントし、[ユニバーサル データ] を選択します。

MapInfo Pro で FME を使用して TAB ファイルを変換するには、[ホーム] タブの [ツール] グループで、[ツール エクステンション] をクリックし、[ユニバーサル トランスレータ] を選択します。

FME 2016 の新機能については、<http://www.safe.com/fme/new> を参照してください。

MapInfo Pro でサポートされる Web サーバ

MapInfo Pro は、以下の Web サーバをサポートします。

- GML (Geospatial data in XML format) 2.1.2。ユニバーサル トランスレータ (FME クイック トランスレータ) は 3.2 までのバージョンをサポートします。
- WFS (Web Feature Service) 1.0、1.1、および 2.0
- WFS 1.0 を使用する WFS-T (Web Feature Service with transactions)
- WMS (Web Map Service) 1.3
- WMTS (Web Map Tile Service) 1.0

また、以下のマッピング タイル サーバもサポートします。

- MapXtreme.NET 9.0 タイル サーバ
- Microsoft Bing タイル サーバ
- OpenStreetMap タイル サーバ
- Spectrum Spatial Server 12.2

MapInfo Pro をインストールする前に

MapInfo Pro をインストールする前に、シリアル番号とアクセス コードをわかりやすい場所に控えてください。インストール、またはアップグレードを完了するには、有効なシリアル番号とアクセス コードが必要です。また、ライセンス申請書に必要事項を入力し、Pitney Bowes Inc. までご返信いただくか、DVD ブラウザの [連絡先] オプションを使用してオンラインで登録してください。

共有ネットワーク ドライブ上の DVD から MapInfo Pro をインストールする場合は、ネットワーク ドライブが特定のドライブ文字 (G など) に割り当てられていることを確認します。詳細については、「[MapInfo Pro インストーラにはドライブ文字が必要](#)」を参照してください。

以下の場合、MapInfo PDF Printer ドライバがインストールされない可能性があります。

- IT 部門のポリシーによってプリンタのインストールが禁止されている。プリンタのインストールを禁止するポリシーが存在しないかどうかを IT 部門に問い合わせてください。プリンタのインストールを禁止するポリシーが存在する場合は、ポリシーの設定を一時的に変更して、MapInfo Pro のインストール時にコンピュータにプリンタをインストールすることを許可してください。

- マルウェアまたはスパイウェア対策ソフトウェアがインストール時にオンになっている。コンピュータ上で実行されているマルウェアまたはスパイウェア対策ソフトウェアを一時的に停止した状態で MapInfo Pro をインストールできるように IT 部門に依頼してください。

注: マルウェアまたはスパイウェア対策ソフトウェアを停止することに不安を感じる場合は、まず、MapInfo Pro をインストールします。このとき、MapInfo PDF Printer ドライバがインストールされなければ、MapInfo Pro をアンインストールします。その後、マルウェアまたはスパイウェア対策ソフトウェアを停止して、MapInfo Pro を再度インストールします。

アップグレード

MapInfoPro.WOR、STARTUP.WOR、および MapInfoPro.pref の各ファイルは、ディレクトリ C:\Users\\AppData\Roaming\MapInfo\MapInfo に格納されています。アップグレードを行うと、これらの構成、環境設定、設定などが新しくインストールされたバージョンに自動的に移行されます。

アプリケーション データ (appdata) ファイルは、MapInfo Pro が動作中に使用する実行可能でないデータ ファイルです。

32 ビットおよび 64 ビット版の Microsoft Office ドライバのインストール

MapInfo Pro は、64 ビット版の Microsoft Excel および Access からのスプレッドシートやテーブルにアクセス可能な 64 ビット アプリケーションです。MapInfo Pro 内で、Excel や Access からのデータを使用するには、64 ビット版の Microsoft Office を使用する必要があります。

MapInfo Pro のインストールプロセスにおいて、64 ビット版の Microsoft Access Database Engine 2010 Redistributable for Office がインストールされます。

32 ビット版の Microsoft Office が、MapInfo Pro と同じシステム上で必要な場合は、以下の手順に従って両方のバージョンの Office ドライバをインストールします。

注: Microsoft は、製品エディションまたはそのコンポーネント間の非互換性を理由に、同一コンピュータ上に両方のドライバをインストールするケースをサポートしません。詳細については、<http://support.microsoft.com/kb/2269468> を参照してください。

Microsoft Office の 32 ビット ドライバと 64 ビット ドライバを同一システム上にインストールするには:

1. <http://www.microsoft.com/en-ca/download/details.aspx?id=13255> から Microsoft Office ドライバをダウンロードします。

32 ビット版は、AccessDatabaseEngine.exeです。64 ビット版は、AccessDatabaseEngine_x64.exeです。

2. 64 ビット版の Office ドライバがインストールされている場合は、これをアンインストールし、システムを再起動します。64 ビット版の MapInfo Pro をインストール済みの場合は、これが既にインストールされています。
3. 32 ビット版の Office 2010 ドライバをインストールします。
4. システム フォルダ (例えば C:\Windows\System32) で、cmd.exe を右クリックして、[管理者として実行]を選択します。
5. コマンド プロンプトで、64 ビット版の Office 2010 ドライバがあるフォルダに移動します。
6. コマンド: AccessDatabaseEngine_x64.exe /passiveを入力して、Enter キーを押します。
7. 32 ビット版の Microsoft Office 2007、2010、2013、または 2016 がインストールされている場合は、その mso.dll レジストリ キーを削除するか、名前を変更します。
 - a) レジストリ エディタ ウィンドウを開きます。Microsoft の [スタート] メニューの [検索] フィールドに regedit と入力し、[regedit.exe] をクリックします。
 - b) レジストリ エディタ ウィンドウで、HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Office\14.0\Common\FilePaths に移動します。
 - c) mso.dll という値がある場合は、削除するか、名前を変更します。

ファイルの削除または名前変更をしない場合、Microsoft Office アプリケーションを起動するときに再構成のメッセージが表示される場合があります。

これで両方のドライバがシステム上にインストールされました。

Office 2013 の 32 ビット版の Excel および Access ファイルを開く場合

MapInfo Pro の 32 ビット版と 64 ビット版の両方が、32 ビット版の Microsoft Office 2013 とともに同じマシンにインストールされている場合、問題が起きる可能性があります。32 ビット版の MapInfo Pro は、32 ビット版の Excel 2013 または Access 2013 で生成されたテーブルを開くと、予期せず終了する場合があります。

セクション「[32 ビット版および 64 ビット版の Microsoft Office ドライバのインストール](#)」には、Microsoft Office の 32 ビット版と 64 ビット版のドライバを同じシステムにインストールする方法が説明されています。この手順に従っても、Excel 2013 および Access 2013 のテーブルを開くと 32 ビット版の MapInfo Pro が予期せず終了する場合は、次の手順に従います。

1. Microsoft Access データベース エンジン 2010 のドライバを 2 つともアンインストールします。
 - a) [スタート] メニューの [コントロール パネル] を選択します。
 - b) コントロール パネルで [プログラムと機能] を選択します。

- c) リストをスクロールして、[Microsoft Access database engine 2010] を探し、選択します。
リストには、このアプリケーションのインスタンスが 2 つあります。
 - d) [アンインストール] を選択し、アンインストール手順の指示に従います。
 - e) もう 1 つの [Microsoft Access database engine 2010] を選択し、アンインストールします。
2. 32 ビット版の Microsoft Access Runtime 2013 (AccessRuntime_x86_en-us.exe) を <https://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=39358> からダウンロードし、インストールします。
 3. 64 ビット版の Microsoft Access データベース エンジン 2010 (AccessDatabaseEngine_x64.exe) を <https://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=13255> からダウンロードします。ダウンロード場所 (C:\Users\myname\Downloads など) をメモします。
注意: インターネット ブラウザ ウィンドウから実行 (インストール) せずに、まずダウンロードします。
4. 64 ビット版の Microsoft Access データベース エンジン 2010 (AccessDatabaseEngine_x64.exe) をインストールします。
 - a) コマンド プロンプト ウィンドウを管理者権限で開きます。システム フォルダ C:\Windows\System32 で、cmd.exe を右クリックして、[管理者として実行] を選択します。
 - b) コマンド プロンプトで、ディレクトリを AccessDatabaseEngine_x64.exe ファイルの場所に変更します (cd C:\Users\myname\Downloads と入力して、Enter キーを押します)。
 - c) コマンド プロンプトで、AccessDatabaseEngine_x64.exe /passive と入力して、Enter キーを押します。
 5. 32 ビット版の Microsoft Office 2007、2010、2013、または 2016 がインストールされている場合は、その mso.dll レジストリ キーを削除するか、名前を変更します。
 - a) レジストリ エディタ ウィンドウを開きます。Microsoft の [スタート] メニューの [検索] フィールドに regedit と入力し、[regedit.exe] をクリックします。
 - b) レジストリ エディタ ウィンドウで、HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Office\14.0\Common\FilePaths に移動します。
 - c) mso.dll という値がある場合は、削除するか、名前を変更します。
ファイルの削除または名前変更をしない場合、Microsoft Office アプリケーションを起動するときに再構成のメッセージが表示される場合があります。

これで 32 ビットと 64 ビットの両方のドライバがシステムにインストールされました。32 ビット版と 64 ビット版の両方の MapInfo Pro で Access 2013 および Excel 2013 のファイルを開くことができます。

MapInfo Pro DVD ブラウザのナビゲーション

MapInfo Pro DVD ブラウザの最初のダイアログ ボックスには、次のオプションがあります。

- [製品のインストール] – このオプションを選択すると、MapInfo Pro (DBMS のサポートおよびトランスレータを含む) と無償データをインストールできます。
- [新機能] – 新しい機能および強化された機能の一覧と、その説明が表示されます。
- [オンラインリファレンス] – 『MapInfo Pro インストールガイド』(本書) や 『MapInfo Pro ユーザーズガイド』 などのオンラインリファレンスマニュアルや、Adobe Acrobat Reader へのリンクが提供されています。これらのマニュアルは、インストール処理中にインストールディレクトリの Documentation というサブフォルダにコピーされます。
- [MapInfo チュートリアル] – このオプションを選択すると、Pitney Bowes Inc. の Web サイトにある MapInfo Pro チュートリアルにアクセスし、製品の基本機能についての理解を深めることができます。チュートリアルを表示するには、
<http://www.pitneybowes.com/us/location-intelligence/geographic-information-systems/mapinfo-pro.html> にアクセスしてください。
- [その他の製品] – MapInfo MapBasic、Spectrum Spatial やその他の製品に関する情報を弊社 Web サイトから表示します。
- [連絡先] – どこにいても Pitney Bowes Inc. のサポートを受けることができます。連絡先のいずれかにお問い合わせいただくか、<http://www.mapinfo.com> にアクセスしてください。
<http://www.pitneybowes.com/us/contact-us.html>
- [DVD の参照] – このオプションを選択すると、DVD の内容を確認することができます。CD のブラウザ中のみ使用できるユーティリティもあります。

Citrix のインストール

Citrix のインストールは通常、IT 担当者またはシステム管理者が行いますが、それ以外のユーザがインストールすることもできます。

MapInfo Pro を Citrix 環境にインストールするにあたって、特別なインストール手順はありません。製品のシリアル番号とアクセスコード (製品ボックスの製品アクティベーション情報カードに記載) に加え、MapInfo Pro をアクティベートする MapInfo ライセンス サーバのコンピュータ名とポート番号が必要になります。Citrix インストールでは、同時使用ライセンスを使用します。この情報は、システム管理者から入手することができます。

IT 担当者またはシステム管理者向けの情報

MapInfo Proに加えて、MapInfo ProをアクティベートするためのMapInfoライセンスサーバユーティリティを購入してください。Citrixインストールでは、MapInfo Proをアクティベートするために、MapInfoライセンスサーバユーティリティが必要です。組織向けにMapInfoライセンスサーバをインストールし、セットアップする手順については、Pitney Bowes Inc.ライセンスサーバに付属する『ユーザーズガイド』を参照してください。

Citrix サーバでサポート可能な MapInfo Pro インスタンス数

Citrix サーバは、Citrix が定める基本的な要件に準拠する必要があります。

Citrix サーバで MapInfo Pro を使用するのに必要な RAM の量を求めるには、RAM の基本消費量を MapInfo Pro を同時に使用するユーザの人数で乗算します。たとえば、RAM の基本消費量は 100 MB、MapInfo Pro を同時に使用するユーザの人数は 5 人の場合、必要な RAM は $5 \times 100\text{MB} = 500 \text{ MB}$ となります。

ただし、MapInfo Pro には多くの依存関係があるので、この計算結果は推定値にすぎません。実際の値は、使用するデータの型や、実行する操作の種類と頻度などによって異なります。操作が異なれば、必要なメモリ量も異なる可能性があります。以下に、特にメモリ消費量が激しい操作を示します。

- オブジェクト処理操作の実行。これらの操作のうち、最もメモリを消費するのは、リージョンのクリーニングと検査です。
- 複雑な SQL 文の実行。
- オブジェクトの編集と描画。
- システム レイヤの広範な使用。
- 拡張ラベル。

2 - MapInfo Pro のインストール

この章では、デスクトップに MapInfo Pro をインストールする方法について説明します。また、インストール処理中に発生する問題の解決方法と、MapInfo Pro をデスクトップから削除する方法を示します。

このセクションの構成

MapInfo Pro のインストール	24
データのインストール	29
関連リソースのインストール	32
MapInfo Pro の変更、または削除	32

MapInfo Pro のインストール

インストーラを実行するには、管理者権限が必要です。また、環境変数 TEMP が有効なディレクトリに設定されている必要があります。

注意: インストール処理を開始する前に、すべての Windows プログラムを終了しておくことを強くお勧めします。以前のバージョンをアップグレードする場合は、以前のバージョンをアンインストールしてからアップグレードしてください。

MapInfo Pro では、ユーザごとにアプリケーション データ ファイルが用意されます。この機能はユーザ単位のインストールといい、MapInfo Pro または MapInfo Pro クライアントの初回実行時、および後から MapInfo Pro インストーラを起動するたびに実行されます。アプリケーション データ ファイルには、ペンスタイル ファイル、カスタム シンボル ファイル、主題凡例テンプレートなどがあります。これらのファイルを使用すると、ユーザごとにカスタム設定を行うことができます。

注: MapInfo Pro (32 ビット) が既にインストールされているコンピュータ上に、MapInfo Pro (64 ビット) をインストールできます。「[同一コンピュータ上にある MapInfo Pro の 32 ビット版と 64 ビット版のライセンス アクティベーション \(37ページ\)](#)」を参照してください。

MapInfo Pro をインストールするには

1. DVD からインストールする場合は、インストーラが自動的に起動します。インストーラが自動的に起動しない場合は、DVD ドライブに移動して **autostart.exe** をクリックしてください。ダウンロードからインストールする場合は、MapInfo Pro をダウンロードしたディレクトリに移動し、**setup.exe** ファイルを右クリックしてポップアップ メニューから [管理者として実行] を選択し、インストールを管理者権限で実行します。

インストールを続けてよいかどうかをたずねるメッセージが表示されたら、[許可] または [はい] をクリックして次に進みます。

ウィザードが開始され、インストールを簡単に行うことができます。

2. 起動メニューで [製品のインストール] を選択します。
3. [MapInfo Pro] を選択します。
4. [MapInfo Pro インストーラ] を選択します。

インストールを続けてよいかどうかをたずねるメッセージが表示される場合があります。[許可] または [はい] をクリックして次に進みます (どちらもクリックしないままタイムアウトになると、インストールは中断します)。

5. 「**必要条件**」に示すコンポーネントのいずれか1つでもシステムにインストールされていない場合は、インストールを指示するメッセージが表示されます。[インストール]をクリックします。
これらのコンポーネントのインストールには数分かかります。各コンポーネントのインストール中、インストールの進行状況が次々と更新されます。
6. 再起動を求めるメッセージが表示されたら、[はい]をクリックします。再起動しなければインストールを続けることができません。
7. [次へ] をクリックして処理を続行します。
8. [ライセンス情報] ダイアログ ボックスで、記載内容を確認します。条項に同意したら、[次へ] をクリックして続行します。
9. [ユーザー情報] ダイアログ ボックスで、ユーザー名、所属、シリアル番号、およびアクセスコードを該当するフィールドに入力します。

注: チェックボックスはオンにしないでください。チェックボックスをオンにすると、MapInfo Pro の評価版がインストールされます。評価版をインストールしたい場合は、シリアル番号とアクティベーションコードを使用してインストールした後で、評価版をアクティベートしてください。

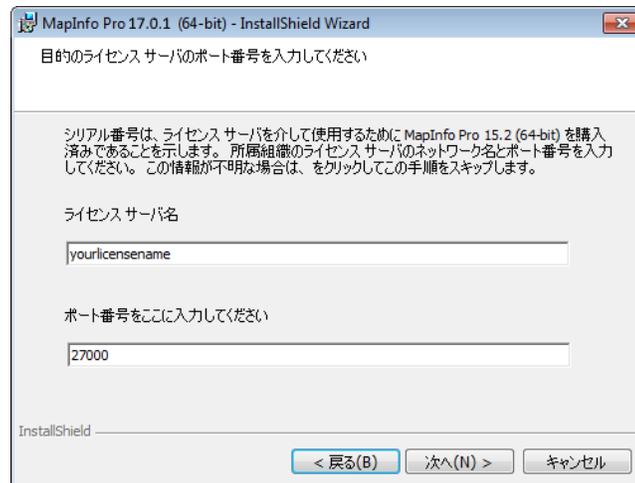
シリアル番号とアクセスコードは、製品アクティベーション情報カード、またはライセンス情報が記載された電子メールに示されています。これらは、製品のアクティベーションに使用します。



10. [次へ] をクリックして続行します。
11. 以下のいずれかを実行します。
 - ご購入いただいたライセンスがノード ロック ライセンスの場合、シリアル番号の 3 文字目は "N" です。この手順をスキップして、**ステップ 12**に進んでください。

- ご購入いただいたライセンスが同時使用ライセンスの場合、シリアル番号の 3 文字目は "S" で、配布可能ライセンスの場合は "D" です。この場合、[ライセンス サーバ名] フィールドと [ライセンス サーバ ポート番号] フィールドがダイアログ ボックス上に表示されます。

注: ノード ロック ライセンス、同時使用ライセンス、配布可能ライセンスの詳細については、「[第 3 章: MapInfo Pro の起動とアクティベーション](#)」を参照してください。



ライセンス サーバ名とポート番号がわかっている場合は、ここに入力します。ライセンス サーバ名とポート番号がわからない場合は、この情報を入力せずにインストール作業を続行します。この情報は、MapInfo Pro を起動したときに入力することができます。

12 [次へ] をクリックして続行します。

13 以下のいずれかのオプションを選択します。

- [すべて] – リモート データベースへのアクセスおよび接続を含めて MapInfo Pro をデスクトップアプリケーションとして使用する場合は、このオプションを選択します。「すべて」に進みます。
- [カスタム] – インストール プログラムによってインストールされるコンポーネントを制限する場合は、このオプションを選択します。例えば、インストーラによってマニュアルやツールが追加されないように設定できます。「カスタム」に進みます。

14 [次へ] をクリックして続行します。

MapInfo Pro を Citrix 環境にインストールするにあたって、特別なインストール手順はありません。Citrix ユーザは、「すべて」の手順に従って MapInfo Pro をインストールしてください。

すべて

インストーラを実行するには、管理者権限が必要です。また、環境変数 TEMP が有効なディレクトリに設定されている必要があります。以下の手順を開始する前に、「[MapInfo Pro のインストール](#)」の手順を完了してください。

マニュアル、ツール、ユニバーサルトランスレータなど、MapInfo Pro プログラム ファイルをすべてインストールする場合は、[すべて] オプションを選択します。

MapInfo Pro のインストールを続行するには

1. **[セットアップ タイプ]** ダイアログ ボックスで、[すべて] を選択します。
2. **[インストール先のフォルダ]** ダイアログ ボックスで、以下のいずれかを実行します。
 - [次へ] をクリックして、指定されているインストール先フォルダをそのまま使用します。
 - [変更] をクリックして、**[インストール先フォルダの変更]** ダイアログ ボックスで新しいパスを作成します。[フォルダ名] フィールドに新しいパスを入力し、[OK] をクリックします。旧バージョンの MapInfo Pro がインストールされていて、そのバージョンを上書きしたくない場合は、新しいディレクトリ名を作成してください。
3. [次へ] をクリックして続行します。
4. **[プログラムをインストールする準備ができました]** ダイアログ ボックスで、選択した項目を見直して、パスが正しいことを確認した後、[インストール] をクリックします。変更を加える場合は、[戻る] をクリックします。
進行状況バーに、処理の状態が表示されます。

注: ODBC または Oracle Spatial を使ってデータベースに接続する場合は、デフォルトで ODBC 接続と Oracle Spatial サポートをインストールして、接続プロセスを簡略化します。

5. インストールが完了すると、「MapInfo 社ホームページにあるこの製品のアップデート情報をチェックしますか?」というメッセージが表示されます。インターネットに接続している場合は、[はい] をクリックして Pitney Bowes Inc. の Web サイトにアクセスし、製品のアップデート情報を確認します。
6. **[完了]** ダイアログ ボックスで、[完了] をクリックします。
「[データのインストール](#)」、または「[第 3 章: MapInfo Pro の起動とアクティベーション](#)」に進みます。

カスタム

以下の手順を開始する前に、「[MapInfo Pro のインストール](#)」の手順を完了してください。

MapInfo Pro インストール プログラム内でコンポーネントとドライバを選択する場合は、[カスタム]を選択します。これは、MapInfo Pro のマニュアルやツールをインストールしないことによってディスク容量を節約したい場合に便利です。

MapInfo Pro のインストールを続行するには

1. **[セットアップ タイプ]** ダイアログ ボックスで、[カスタム]を選択します。
2. **[カスタム セットアップ]** ダイアログ ボックスでは、コンポーネントをクリックすると、そのコンポーネントに関する情報とインストールに必要な容量を確認できます。
 - MapInfo プログラム ファイル – MapInfo Pro を実行するにはこれらのファイルをインストールする必要があります。
 - ドキュメント – PDF 形式のユーザーズ ガイドをインストールします。
 - ツール - MapInfo ユーティリティをインストールします。

インストールから除外するコンポーネントを選択するには、コンポーネントの下にある下向き矢印をクリックします (デフォルトではすべてのコンポーネントがインストールされます)。以下のオプションのメニューから、[この機能を使用できないようにします。]を選択します。

 - この機能をローカルのハードディスク ドライブにインストールします。
 - この機能、およびすべてのサブ機能をローカルのハードディスク ドライブにインストールします。
 - この機能を使用できないようにします。
3. デフォルト以外の場所をインストール先として指定するには、[変更]をクリックします。**[インストール先フォルダの変更]** ダイアログ ボックスで、[フォルダ名] フィールドに新しいパスを入力し、[OK] をクリックして次に進みます。
4. 使用しているハードドライブまたは割り当てられているその他のリソースに十分な空き容量があるかどうかを確認する場合は、[ディスク]をクリックします。**[必要なディスク空き領域]** ダイアログ ボックスに、ディスク サイズ、利用できる容量、および選択したインストールによって使用される容量が表示されます。
5. **[カスタム セットアップ]** ダイアログ ボックスで必要に応じてオプションを設定したら、[次へ]をクリックします。
6. 英語版の Mapinfo Pro をインストールしている場合は、**[言語設定]** ダイアログ ボックスが表示されます。英語の言語設定を選択し、[次へ]をクリックします。
7. **[プログラムをインストールする準備ができました]** ダイアログ ボックスで、[インストール] ボタンをクリックして、MapInfo Pro と選択した機能のインストールを開始します。**[MapInfo Pro をインストールしています]** ダイアログ ボックスに、進捗状況を示すバーが表示されます。
8. インストールが完了すると、"MapInfo 社ホームページにあるこの製品のアップデート情報をチェックしますか?" というメッセージが表示されます。インターネットに接続している場合

は、[はい] をクリックして Pitney Bowes Inc. の Web サイトにアクセスし、製品のアップデート情報を確認します。

9. [完了] ダイアログ ボックスで、[完了] をクリックします。

「データのインストール」または「[MapInfo Pro の起動とアクティベーション](#)」に進みます。

データのインストール

初めてご利用いただく方の便宜を図るために、Pitney Bowes は、データの背景として使用できる米国中心の地図と世界全体の地図を提供しています。

インストール後にサンプル データを操作するためには、編集 (読み取り/書き込み) が許可されたフォルダにインストールする必要があります。ユーザ アカウント制御 (UAC) が有効な場合、デフォルトでは、一部のフォルダ (たとえば Program Files または Program Files (x86) フォルダ) には書き込みのアクセス許可がありません。インストールの前にシステム管理者に相談してください。

MapInfo Pro に付属する無償データをインストールするには

1. 起動メニューで [製品のインストール] を選択します。
2. [デモ用データと産業サンプル集] をクリックします。
3. [デモ用データと産業サンプル集をインストール] をクリックします。

インストールを続けてよいかどうかをたずねるメッセージが表示される場合があります。[許可] または [はい] をクリックして次に進みます (何も応えずタイムアウトになると、インストールが中断されます)。

4. [よろこそ] ダイアログ ボックスで、[次へ] をクリックして続行します。
5. [ライセンス情報] ダイアログ ボックスで、記載内容を確認します。条項に同意したら、[次へ] をクリックして続行します。
6. [セットアップ タイプ] ダイアログ ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - [完了]—データセットがすべてインストールされます。[次へ] をクリックし、「[データの完全インストール](#)」に進みます。
 - [カスタム]—インストールするデータセットを選択できます。[次へ] をクリックし、「[データのカスタム インストール](#)」に進みます。

Citrix 環境に MapInfo Pro データのインストールする特別な手順はありません。Citrix ユーザは、「[データの完全インストール](#)」の手順に従って MapInfo Pro データをインストールしてください。

データの完全インストール

以下の手順を開始する前に、「**データのインストール**」の手順を完了してください。

MapInfo Pro のサンプルデータをすべてインストールする場合は、このオプションを選択します。

データの完全インストールの手順を使用して、データのインストールを続行するには

1. **[インストール先のフォルダ]** ダイアログ ボックスで、デフォルトの場所をそのまま使用するか、**[変更]** をクリックして、データのインストール先として別の場所を選択します。デフォルトのインストールパスは C:\Program Files (x86)\MapInfo\Data です。**[次へ]** をクリックして続行します。
2. **[関連製品]** ダイアログ ボックスで、次のいずれかのオプションを選択し、**[次へ]** をクリックします。
 - MapInfo Pro
 - MapInfo ランタイムデータを MapInfo Pro と MapInfo ランタイムの両方で使用する場合は、**[MapInfo Pro]** を選択します。
3. 前の手順で **[MapInfo Pro]** を選択した場合は、**確認を求め**るダイアログ ボックスが表示されます。**[はい]** をクリックして、データのワークスペース アイコンを作成します。
4. **[プログラムをインストールする準備ができました]** ダイアログ ボックスの **[インストール]** をクリックします。

これで、サンプルデータを操作する準備が整いました。

データのカスタム インストール

以下の手順を開始する前に、「**データのインストール**」の手順を完了してください。

MapInfo Pro のサンプルデータを一部インストールする場合は、このオプションを選択します。

データは 1 箇所のフォルダにのみインストールされます。

データのカスタム インストールの手順を使用して、データのインストールを続行するには

1. **[カスタム セットアップ]** ダイアログ ボックスで、データセットをクリックすると、そのデータセットに関する情報とインストールに必要な容量が表示されます。インストールから除外するデータセットを選択するには、コンポーネントの下にある下向き矢印をクリックします (デフォルトではすべてのデータセットがインストールされています)。次のいずれかのオプションを選択します。

- この機能をローカルのハードディスク ドライブにインストールします。
 - この機能、およびすべてのサブ機能をローカルのハードディスク ドライブにインストールします。
 - この機能を使用できないようにします。
2. インストール先を変更するには、[変更]をクリックします。デフォルトのインストールパスは C:\Program Files (x86)\MapInfo\Data です。
 3. 使用しているハードディスク ドライブまたは割り当てられているその他のリソースに十分な空き容量があるかどうかを確認する場合は、[ディスク]をクリックします。
[必要なディスク空き領域] ダイアログ ボックスに、ディスク サイズ、利用できる容量、および選択したインストールによって使用される容量が表示されます。
 4. 必要に応じてオプションを設定したら、[次へ]をクリックします。
 5. **ステップ 1**で選択したデータによっては、**[関連製品]** ダイアログ ボックスが開くことがあります。このダイアログが開いた場合は、次のいずれかのオプションを選択して [次へ]をクリックします。
 - MapInfo Pro
 - MapInfo ランタイムデータを MapInfo Pro と MapInfo ランタイムの両方で使用する場合は、[MapInfo Pro]を選択します。
 6. 前の手順で [MapInfo Pro] を選択した場合は、**確認を求める**ダイアログ ボックスが表示されます。[はい]をクリックして、データのワークスペース アイコンを作成します。
 7. **[プログラムをインストールする準備ができました]** ダイアログ ボックスの [インストール]をクリックします。

「**関連プログラムおよびリソースのインストール**」または「**第 3 章: MapInfo Pro の起動とアクティベーション**」に進みます。

データの購入

弊社の製品について調べるには、[製品のインストール]の [デモ用データと産業サンプル集] を選択して、MapInfo Pro 製品起動ツールから [データの購入] を選択します。MapInfo Pro をインストールした後に、[PRO] タブで [製品]、[データ製品カタログのダウンロード]の順にクリックすることによってこれを行うことができます。ブラウザがインストールされている場合は、Pitney Bowes の Web サイトに自動的に接続します。この Web サイトでは弊社の世界中のデータ製品が詳しく紹介されています。MapInfo は、高い信頼性と最新の情報を基にした 350 以上のデータ製品を提供しています。

関連リソースのインストール

このセクションでは、MapInfo Pro に関連するマニュアルのインストール方法について説明します。

MapInfo Pro を初めて起動するときには、製品ライセンスのアクティベーションが必要です。関連プログラムとリソースのインストールを終えたら、「[MapInfo Pro の起動とアクティベーション](#)」に進みます。

オンライン リファレンスのインストール

MapInfo Pro のドキュメントは、インストール ディレクトリの Documentation というサブフォルダにインストールされます。

- MapInfo Pro のライセンスおよびアクティベーション
- MapInfo Pro インストール ガイド
- MapInfo Pro ユーザーズ ガイド

PDF 形式のドキュメント ファイルを閲覧するには、PDF リーダーをインストールする必要があります。Adobe Acrobat Reader を www.adobe.com から無料でダウンロードできます。

MapInfo Pro の変更、または削除

MapInfo Pro DVD からの変更、削除、修復

MapInfo Pro DVD ブラウザの [プログラムの保守] 機能を使用すると、MapInfo Pro ソフトウェアを変更、修復、または削除できます。

注: MapInfo Pro の環境設定については、ヘルプシステムの「[MapInfo Pro の環境の設定](#)」を参照してください。

[プログラムの保守] にアクセスするには

1. MapInfo Pro DVD ブラウザで [製品のインストール] をクリックします。

2. [MapInfo Pro]をクリックします。
3. [MapInfo Pro インストーラ]をクリックします。

インストールを続けてよいかどうかをたずねるメッセージが表示される場合があります。[許可] または [はい] をクリックして次に進みます (どちらもクリックしないままタイムアウトになると、インストールは中断します)。
4. [よろこそ] ダイアログ ボックスの [次へ] をクリックします。
5. [プログラムの保守] ダイアログ ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - [カスタム セットアップ] ダイアログ ボックスを表示する場合は、[変更] を選択します。
 - プログラムのインストール エラーを修復する場合は、[修理] を選択します。
 - システムから MapInfo Pro の既存のコピーを削除する場合は、[削除] を選択します。[プログラムの削除] ダイアログ ボックスが開きます。[削除] をクリックして、システムから本製品のプログラムを削除します。

アンインストール時にノード ロック ライセンスを移動するオプションの詳細については、「[第3章: MapInfo Pro の起動とアクティベーション](#)」を参照してください。

コントロール パネルを使って MapInfo Pro をシステムから削除する

コントロール パネルを使って MapInfo Pro を削除するには

1. コントロール パネルを起動し、[プログラムと機能] オプションを選択します。

Windows 8 では、[デスクトップ] メニューから [コントロール パネル] を開き、[プログラムと機能]を選択します。
2. [MapInfo Pro 17.0.1(64 ビット)] を右クリックし、ポップアップ メニューから [アンインストール] を選択します。

製品起動ツールを使って MapInfo Pro をシステムから削除する

MapInfo Pro をアンインストールするには

1. DVD からインストールした場合は、インストーラが自動的に起動します。インストーラが自動的に起動しない場合は、DVD ドライブに移動して `autostart.exe` をクリックしてください。ダウンロードからインストールした場合は、MapInfo Pro をダウンロードしたディレクトリに移動し、`setup.exe` ファイルを右クリックしてポップアップ メニューから [管理者として実行] を選択し、アンインストールを管理者権限で実行します。
2. 起動メニューで [製品のインストール] を選択します。

3. [MapInfo Pro]を選択します。
4. [MapInfo Pro インストーラ]を選択します。

インストールを続けてよいかどうかをたずねるメッセージが表示される場合があります。[許可] または [はい] をクリックして次に進みます。
5. [ようこそ] ダイアログ ボックスの [次へ] をクリックします。
6. [プログラムの保守] ダイアログ ボックスで、[削除] を選択し、[次へ] をクリックします。
7. [プログラムの削除] ダイアログ ボックスで、[削除] を選択します。

3 - MapInfo Pro の起動 とアクティベーション

MapInfo Pro の最初の起動時には、インストール時に入力したシリアル番号とアクセスコードによって製品をアクティベートするよう求められます。このセクションでは、ご購入いただいたライセンスの種類に応じたアクティベーションプロセスについて説明します。

MapInfo Pro を起動するには、以下のいずれかの操作を行います。

- デスクトップ上の [MapInfo Pro] アイコンをダブルクリックします。
- [スタート] メニューの [すべてのプログラム] をポイントし、[MapInfo Pro 17.0.1(64 ビット)] を選択します。

このセクションの構成

所有しているライセンスの種類の確認	36
同一コンピュータ上にある MapInfo Pro の 32 ビット版と 64 ビット版の ライセンス アクティベーション	37
アドバンスド ライセンス	38
マッピング サービス	39
ノード ロック ライセンス	41
同時使用ライセンス	48
配布可能ライセンス	53

所有しているライセンスの種類の確認

インストール時に入力したシリアル番号とアクセスコードから、所有しているライセンスの種類が判別されます。組織の購入ライセンスの種類に応じて、製品のアクティベーションプロセス (ノードロックライセンスの場合) またはライセンスサーバへの接続プロセス (同時使用ライセンスまたは配布可能ライセンスの場合) が開始されます。

MapInfo Pro ライセンスには次の種類があります。

- 機能別ライセンス
 - アドバンスド ライセンス - シリアル番号の 2 文字目が "A" である場合、ご購入のライセンスは MapInfo Pro アドバンスド ライセンスです。詳細については、「[アドバンスドライセンス](#)」を参照してください。
 - プレミアム ライセンス - シリアル番号の 4 文字目が "P" である場合、ご購入のライセンスはプレミアム ライセンスです。プレミアム サービスの詳細については、「[プレミアム サービス](#)」を参照してください。
 - ベーシック ライセンス - シリアル番号の 2 文字目が "I" で 4 文字目が "W" である場合、ご購入のライセンスは MapInfo Pro ベーシック ライセンスです。
- シングルユーザ用共有可能ライセンス
 - ノードロック ライセンス - シリアル番号の 3 文字目が "N" である場合、ご購入のライセンスはノードロックライセンスです。アクティベーションの手順については、「[ノードロックライセンス](#)」を参照してください。
 - 同時および借用可能ライセンス - シリアル番号の 3 文字目が "S" である場合、ご購入のライセンスは同時ライセンスです。MapInfo Pro が Citrix 環境にインストールされている場合は、これに該当します。アクティベーションの手順については、「[同時使用ライセンス](#)」を参照してください。
 - 配布可能ライセンス - シリアル番号の 3 文字目が "D" であるか、電子メールの使用に制限がある場合は、ご購入のライセンスは配布可能ライセンスです。ライセンスサーバのマシン名とポート番号は、システム管理者から与えられます。アクティベーションの手順については、「[配布可能ライセンス](#)」を参照してください。

MapInfo Pro ライセンス シリアル番号は、上記の複数のライセンスの組み合わせとなります。例えば、単一のワークステーション上で使用する MapInfo Pro のアドバンスドおよびプレミアム サービスを購入した場合、シリアル番号は次のような形式になります。

MANPEW1111111111

このシリアル番号の太字部分のうち、"A"はアドバンスドライセンス、"N"はノードロック版、"P"はプレミアム サービスを表します。

同一コンピュータ上にある MapInfo Pro の 32 ビット版と 64 ビット版のライセンス アクティベーション

ご使用のライセンス モデルにかかわらず、32 ビット版の MapInfo Pro (バージョン 15.x または 12.5) を、この 64 ビット版と同じコンピュータ上で共存できます。アクティベーションと返却の処理や、ライセンスを借用可能かどうかは、ご使用のライセンスによって異なります。

ノード ロック ライセンス

ライセンスは、Pitney Bowes FNO サーバから取得します。MapInfo Pro をインストールした後、ライセンスのアクティベーションは直ちに行うか、または、30 日間の試用期間中に後で行うことができます。アクティベーションを行うと、Pitney Bowes FNO サーバから取得したライセンスが、コンピュータにノードロックされます。MapInfo Pro の 32 ビット版をインストールする際には、ライセンスのアクティベーションは必要ありません。両方のインストールに対して、同じライセンスが使用されます。

15.x または 12.5 のライセンスをチェックアウトしていて、32 ビット版と 64 ビット版の両方の MapInfo Pro を同じマシンにインストールしている場合、ライセンスを返却する際にはあらかじめ注意が必要です。32 ビット版と 64 ビット版はどちらも同じライセンスを使用しています。たとえば、64 ビット版の MapInfo Pro 15.2 のライセンスを返却した場合、32 ビット版の MapInfo Pro 15.0 も使用できなくなります。

詳細については、「[ノード ロック ライセンス \(41ページ\)](#)」を参照してください。

同時使用ライセンス

同時使用またはフローティング ライセンスは、お客様の組織で購入して管理しているライセンスサーバから取得します。同時使用ライセンスのアクティベーションを行うには、ライセンスサーバの名前とポートが必要です。ライセンスのアクティベーションは、インストール時、または MapInfo Pro セッションの開始時に行うことができます。コンピュータ上の MapInfo Pro の各セッションでは、同時使用ライセンスのチェックアウトが必要です。ただし、同一コンピュータ上で同じユーザが MapInfo Pro の両方のインスタンスを使用している場合に、もう一方のライセンスがチェックアウトされることはありません。セッションを終了すると、ライセンスがサーバに返却されます。

同時使用ライセンスの借用

借用可能ライセンスとは、別のコンピュータで一定期間使用するために借用される同時使用ライセンスのことです。これによって、ライセンスサーバに接続されていない MapInfo Pro を、例えば外出時のラップトップ上などで実行することができます。

MapInfo Pro の 32 ビット版と 64 ビット版の両方がラップトップ上にある場合、借用したライセンスは両方のエディションで共有されます。共有ライセンスを返却する場合は、ラップトップをライセンスサーバネットワークに再接続して、いずれかのエディションの使用を継続するための別の同時使用 (フローティング) ライセンスを取得する必要があります。

詳細については、「[同時使用ライセンス \(48ページ\)](#)」を参照してください。

配布可能ライセンス

配布可能ライセンス モデルは、企業が MapInfo ライセンス サーバ (MapInfo Pro DVD またはダウンロードによってインストール可能) を使用して永久ライセンスを "配布" できるようにするものです。このモデルは、電子メールや Pitney Bowes FNO サーバへのアクセスに制限があるお客様を対象としています。配布ライセンスのアクティベーション手順は、ライセンスサーバを用いた他のモデルの手順と似ています。ライセンスサーバのインストール手順については、ライセンスサーバの『[ユーザズガイド](#)』を参照してください。

詳細については、「[配布可能ライセンス \(53ページ\)](#)」を参照してください。

ユニバーサル ライセンス

ユニバーサル ライセンスをご購入された組織には、組織内の MapInfo Pro ユーザが使用可能な特別ライセンスが提供されます。32 ビット版と 64 ビット版の両方が同一コンピュータ上にインストールされている場合に、特別な要件や処理はありません。

アドバンスド ライセンス

MapInfo Pro アドバンスド ライセンスを利用すると、高品質なラスタ表示と、グリッドベースの空間情報分析が可能になります。アドバンスド ライセンスは、複数のデスクトップおよびサーバ製品にわたって再利用可能なコア ラスタ エンジンを提供することによって MapInfo Pro の機能を拡張します。MapInfo Pro アドバンスドの特長は以下のとおりです。

- 非常に大きなグリッド ファイルに対する高い性能を実現
- すべてのズーム レベルでデータを効率的に表示
- 同一ファイル内で数値データと分類データの両方をサポート
- グリッド形式とイメージ形式をサポート
- 大きすぎてメイン メモリに収まらない大容量ラスタ ファイルを用いた高性能分析、処理、複雑なワークフローを提供

MapInfo Pro のアドバンスド ライセンスを購入していない場合は、以下に示すラスタ エンジンの基本的な機能のみが使用可能です。

- サポートされているラスタ (MRR、ERS、ASC、GRD、GRC など) を開く操作
- ラスタ情報
- 統計
- セル値
- 疑似カラー
- RGB カラー
- カラー ストレッチ
- 起伏陰影
- 変換
- コピー
- 削除
- 名前の変更

購入ライセンスがノード ロック ライセンスの場合は、インストールした MapInfo Pro システムのアクティベーションを行わないとライセンスを使えません。アクティベーションとは、Pitney Bowes Inc. からライセンスを取得することです。

注: Citrix インストールの場合は、使用許諾契約に従うために [同時使用ライセンス](#) を使用する必要があります。

マッピング サービス

Microsoft Bing Maps のライセンス

MapInfo Pro ライセンスを新規に購入するか、既存のライセンスをアップグレードすると、Web マッピング サービスである Microsoft Bing Maps の Bing 航空写真マップおよび Bing ハイブリッド マップを利用できるようになります。これらのマップは、MapInfo Pro の [Bing 道路をマップに追加] および [指定した位置へジャンプ] 機能で使われます。これらのマップには利用期限があります。「[Bing Maps の有効期限 \(40ページ\)](#)」を参照してください。有効期限後も引き続きマップを利用するには、MapInfo Pro ライセンスの保守契約を結ぶ必要があります。これにより、最新バージョンの MapInfo Pro にアップグレードして、[Bing 道路をマップに追加] および [指定した位置へジャンプ] 機能を使い続けることができます。

Bing Maps の有効期限

Bing Maps のライセンスには有効期限があり、MapInfo Pro のバージョンによってその期間は異なります。Bing Maps と [Bing 道路をマップに追加] 機能および [指定した位置へジャンプ] 機能は、次の日付が過ぎると機能しなくなります。

- MapInfo Pro 17.0: 2019 年 1 月 1 日
- MapInfo Pro 16.0: 2018 年 1 月 1 日
- MapInfo Pro 15.0 および 15.2: 2017 年 1 月 1 日

Bing 道路レイヤと [指定した位置へジャンプ] 機能を提供するプレミアム サービス オプションをご利用の方にも、同じ日付が適用されます。

Bing Maps の利用を継続するには、最新バージョンの MapInfo Pro にアップグレードする必要があります。そうすることで、MapInfo Pro の最新の機能強化による恩恵も受けられます。ソフトウェアのアップグレードを直ちに実施しない IT 部門もあるものと承知しております。有効なメンテナンス契約のライセンスをお持ちで、上記の期限までに MapInfo Pro ライセンスをアップグレードできない場合は、Bing ライセンスの期限を延長することも可能です。11.0.x、11.5.x、12.0.x、12.5.x、15.0.x、15.2.x、16.0.x の各バージョンに対する Bing Maps ライセンスを延長するには、Pitney Bowes の担当者または代理店にご連絡ください。

所有するライセンスの使用

Bing Maps のライセンスを Microsoft からすでに購入されている場合、MapInfo Pro でそのライセンスを使用できます。

所有するライセンスの情報を MapInfo Pro に入力するには、以下の手順に従ってください。

1. [PRO] タブの [ライセンス] をポイントし、[Bing ライセンス キー] をクリックして [Bing キー 資格情報] ダイアログ ボックスを開きます。
2. ライセンスの値を [有効なキーの入力] フィールドに入力して [OK] をクリックします。

Bing Maps 利用規約

Bing Maps の機能の利用方法には制限があります。利用規約を表示するには、[PRO] タブで、[情報]、[Bing に関する条件] の順にクリックしてください。利用規約の Web ページがインターネット ブラウザのウィンドウで開きます。

プレミアム サービス

MapInfo Pro プレミアム ライセンスでは、以下の (オプションの) プレミアム サービスを使用できません。

- Bing 道路をマップに追加 – MapInfo Pro は Microsoft® Bing™ 道路をサポートします。Microsoft Bing レイヤを 1 回のクリックで簡単にマップに追加できます。
- 指定した位置へジャンプ – 指定した位置へジャンプ機能は、住所や場所の名称に従ってマップの中心位置を新しい場所に移動する機能です。

これらの機能は、トライアルの評価期間でも使用できます。評価版をインストールすると、30 日間の試用期間中、MapInfo Pro を制限なしで利用できます。プレミアム サービスを購入すると追加のコストがかかります。

ノード ロック ライセンス

ノード ロック ライセンスを使うと、特定の 1 台のコンピュータで MapInfo Pro を実行できます。購入ライセンスがノード ロック ライセンスの場合は、インストールした MapInfo Pro システムのアクティベーションを行わないとライセンスを使えません。アクティベーションとは、Pitney Bowes Inc. からライセンスを取得することです。

注: Citrix インストールの場合は、使用許諾契約に従うために **同時使用ライセンス** を使用する必要があります。

製品アクティベーション

Pitney Bowes Inc. では、インストール時に入力されたシリアル番号とアクセスコードを使用して製品のアクティベーションを行います。シリアル番号とアクセスコードは、製品アクティベーション情報カードまたは電子メールに記載されているので、必要に応じて確認してください。

MapInfo Pro のアクティベーションを行うには

1. MapInfo Pro をまだインストールしていなければインストールし、製品を起動します。
インストール後に初めて MapInfo Pro を起動すると、アクティベーションウィザードが起動されます。**[MapInfo Pro のアクティベーション]** ダイアログ ボックスが表示されます。
2. MapInfo Pro のアクティベーションをいつ行うかを選択します。以下のいずれかを選択します。
 - [今すぐアクティベーション]-今すぐアクティベーションを開始するには、このオプションを選択します。詳しい手順については、「**今すぐアクティベーション**」に進んでください。
 - [後でアクティベーション]-アクティベーションを行わずに製品を 30 日間試用するには、このオプションを選択します。詳しい手順については、「**後でアクティベーション**」に進んでください。

後でアクティベーション

[後でアクティベーション]を選択した場合は、アクティベーションウィザードが終了し、試用期間が始まります。試用期間中は、MapInfo Pro をすぐに使用でき、製品のアクティベーションは都合のよいときに行うことができます。MapInfo Pro の起動時に毎回試用期間の残りの日数を知らせるダイアログボックスが表示され、そこから製品のアクティベーションを行うことができます。業務の中断を避けるためにも、MapInfo Pro のアクティベーションは試用期間中に行ってください。試用期間が終了すると、アクティベーションを行うまで MapInfo Pro は使えなくなります。

今すぐアクティベーション

[アクティベーション方法を選択]ダイアログボックスで、次のいずれかのアクティベーション方法を選択し、[次へ]をクリックします。



自動アクティベーション

インターネットに接続している場合は、自動アクティベーションオプションを選択します。アクティベーションウィザードにより、Pitney Bowes FNO サーバと一時的に接続が確立されます。インストール時に入力したシリアル番号とアクセスコードに基づき、組織の購入ライセンスの1つが検索され、そのライセンスと現在のコンピュータが関連付けられます。

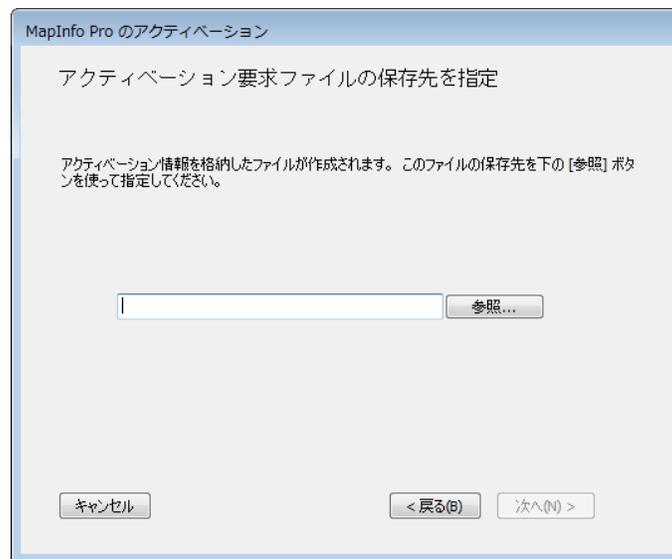
アクティベーション処理が完了すると、ソフトウェアを操作できるようになります。

電子メール アクティベーション

インターネットに接続していない場合は、電子メール アクティベーション オプションを選択します。アクティベーション ウィザードに従ってアクティベーション要求ファイルを作成し、Pitney Bowes Inc. 宛てに電子メールで送信します。

電子メール アクティベーションを開始するには

1. **[アクティベーション資格情報を確認]** ダイアログ ボックスで、シリアル番号とアクセスコードが間違っていないことを再度確認し、[次へ] をクリックします。必要なら [編集] をクリックして修正を行います。
2. **[アクティベーション要求ファイルの保存先を指定]** ダイアログ ボックスで、[参照] をクリックしてアクティベーション要求ファイルを保存するフォルダを選択し、[次へ] をクリックします。アクティベーション要求の内容はシリアル番号とアクセスコード、それにアクティベーションを実行するコンピュータを識別する情報が含まれています。



3. **[この重要な情報を保存]** ダイアログ ボックスには、アクティベーション要求ファイルについての情報が含まれます。[アクティベーション要求ファイル] ボックスには、アクティベーション要求ファイルの完全パスとファイル名が表示されます。[電子メール アドレス] ボックスには、ファイルの送信先電子メール アドレスが表示されます。

アクティベーション要求ファイルの場所と送信先電子メール アドレスをメモします。

注意: アクティベーション要求ファイルを編集してはいけません。編集を加えた場合、アクティベーション要求ファイルを処理できなくなり、アクティベーションに失敗する可能性があります。

4. [OK] をクリックします。
アクティベーションウィザードが終了し、試用期間が自動的に始まります。
5. アクティベーション要求を Pitney Bowes Inc. まで送信してください。アドレスは `activation@mapinfo.com` です。

電子メール アクティベーションの最終処理

Pitney Bowes Inc. からアクティベーション応答ファイルが届いたら、製品のアクティベーションの最終処理を行うことができます。

電子メール アクティベーションの最終処理を行うには

1. Pitney Bowes Inc. から受け取ったアクティベーション応答ファイルをコンピュータ上の任意のフォルダにコピーし、その場所をメモします。
2. MapInfo Pro を起動します。MapInfo Pro が既に起動されている場合は、いったん終了してから再起動します。
MapInfo Pro のアクティベーションを完了するかどうかを確認するダイアログ ボックスが表示されます。
3. [はい] をクリックします。
4. **[電子メールアクティベーション応答を処理]** ダイアログ ボックスで、**[参照]** をクリックして、アクティベーション応答ファイルがある場所に移動します。
5. **[応答ファイルの場所]** ダイアログ ボックスで、ファイルの場所を指定して**[開く]** をクリックします。
アクティベーション応答ファイルのパスとファイル名が表示されます。
6. **[電子メールアクティベーション応答を処理]** ダイアログ ボックスで、**[次へ]** をクリックします。
アクティベーションが正常に終了したことを知らせるアクティベーションメッセージが表示されます。
7. [OK] をクリックします。
アクティベーションウィザードが終了します。製品のアクティベーションが完了し、使用できる状態になります。

電子メール アクティベーションが完了します。アクティベーション応答ファイルは削除してもかまいません (ファイルをコンピュータに残しておく必要はありません)。

注: 現在のアクティベーションの状態を確認するには、**[PRO]** タブで**[ライセンス]** をポイントし、情報を確認します。

アクティベーションが完了するまでの間に MapInfo Pro を使用する

Pitney Bowes Inc. からアクティベーション応答ファイルが送られてくるのを待つ間も、試用期間として MapInfo Pro を使い続けることができます。製品を中断なく使用するためにも、アクティベーションは試用期間中に行うことをお勧めします。

電子メールによるアクティベーションを開始してからアクティベーションがまだ完了していない段階で MapInfo Pro を起動すると、毎回、アクティベーションを完了するかどうかを確認するメッセージが表示されます。Pitney Bowes Inc. からアクティベーション応答ファイルが届いたら、アクティベーションの最終処理を行うことができます。

試用期間として MapInfo Pro の使用を継続するには

1. **[MapInfo Pro のアクティベーションを終了しますか?]** ダイアログ ボックスで、**[いいえ]** をクリックします。
2. ダイアログ ボックスが開いて、試用期間に関する情報が表示されたら、次のいずれかを選択します。
 - **[MapInfo Pro を使用]** - アクティベーション応答ファイルをまだ受け取っていないとき試用期間として MapInfo Pro を使い続けるには、このオプションを選択します。
 - **[アクティベーションをやり直す]** - 前回のアクティベーション試行が失敗した場合、このオプションを選択します。
3. **[完了]** または **[次へ]** をクリックします。
 - **[MapInfo Pro を使用]** を選択した場合は、**[完了]** をクリックします。アクティベーション ウィザードが終了し、試用期間として MapInfo Pro を使える状態になります。アクティベーションの完了処理は、後日行うことができます。
 - 前回の MapInfo Pro のアクティベーションに失敗し、**[アクティベーションをやり直す]** を選択した場合は、**[次へ]** をクリックします。アクティベーション ウィザードが再起動され、アクティベーションを再試行できます。

ノード ロック ライセンスの移動

ノード ロック ライセンス (シリアル番号の 3 文字目が "N") は、特定の 1 台のコンピュータに関連付けられます。コンピュータ間でライセンスを移動すれば、アクティベーションを行ったコンピュータでなくてもライセンスを追加せずに製品を使用できます。たとえば、職場で新しいコンピュータが与えられたときに、古いコンピュータではなく新しいコンピュータ上で製品を実行する場合はこれに該当します。年間移動可能回数は、ライセンス購入時にお客様の組織で選択されたオプションによって異なります。

ライセンスを別のコンピュータに移動する

ノード ロック ライセンスを移動するには

1. MapInfo Pro を起動します。
2. [PRO] タブで、[ライセンス]、[ライセンスを移動]を選択します。
3. **[MapInfo Pro ライセンス移動]** ダイアログ ボックスで、[はい]をクリックします。
4. **[アクティベーション方法を選択]** ダイアログ ボックスで、[自動アクティベーション]と[電子メールアクティベーション]のどちらかのアクティベーション方法を選択し、[次へ]をクリックします。

詳しい手順については、「**自動アクティベーション**」セクションまたは「**電子メールアクティベーション**」セクションに進んでください。

自動アクティベーション

インターネットに接続している場合は、自動移動オプションを選択します。ライセンスは自動的に Pitney Bowes Inc. に移動します。別のコンピュータで製品のアクティベーションを行うことで、ライセンスを取得できます。

ライセンスの自動移動を開始するには

1. **[アクティベーション方法を選択]** ダイアログ ボックスで、[自動アクティベーション]を選択し、[次へ]をクリックします。
ライセンス移動ウィザードがライセンスを Pitney Bowes Inc. に移動するのに少し時間がかかります。この処理が完了すると、移動処理が正常に完了したことを示すメッセージが表示されます。
2. [OK] をクリックします。

MapInfo Pro が終了し、今後このコンピュータ上で実行できなくなります。このライセンスは別のコンピュータで MapInfo Pro のアクティベーションを行うときに使用できます。

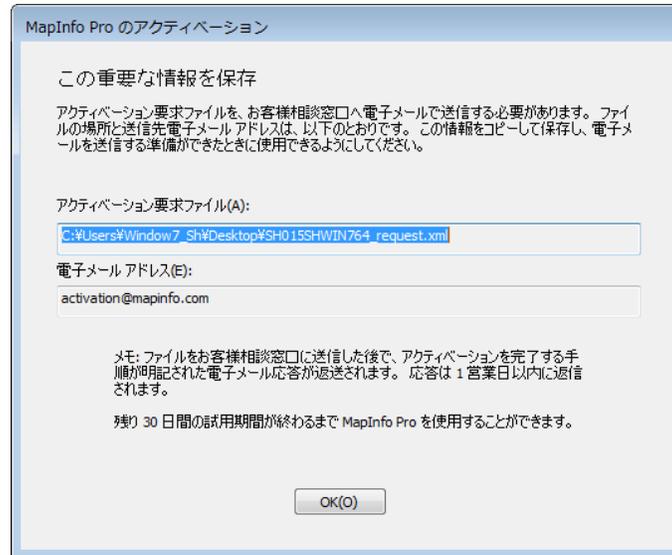
電子メールアクティベーション

インターネットに接続していない場合は、電子メールアクティベーションオプションを選択します。指示に従って移動要求ファイルを作成し、Pitney Bowes Inc. 宛てに電子メールで送信します。

電子メールを使ってライセンスを移動するには

1. **[アクティベーション方法を選択]** ダイアログ ボックスで、[電子メールアクティベーション]を選択し、[次へ]をクリックします。
2. **[移動要求ファイルを保存]** ダイアログ ボックスで、移動するライセンス ファイルの場所を入力するか、[参照] をクリックして選択します。[次へ] をクリックして続行します。
3. **[この重要な情報を保存]** ダイアログ ボックスには、アクティベーション要求ファイルについての情報が含まれます。[アクティベーション要求ファイル] ボックスには、アクティベーション

要求ファイルの完全パスとファイル名が表示されます。[電子メール アドレス] ボックスには、ファイルの送信先電子メール アドレスが表示されます。



移動要求ファイルの場所と送信先電子メール アドレスをメモします。

注意: 移動要求ファイルを編集してはいけません。編集を加えた場合、アクティベーション要求ファイルを処理できなくなり、アクティベーションに失敗する可能性があります。

4. [OK] をクリックします。

MapInfo Pro が終了します。このコンピュータで再び実行するためには再度アクティベーションが必要です。

5. アクティベーション要求を Pitney Bowes Inc. まで送信してください。アドレスは activation@mapinfo.com です。

このライセンスは別のコンピュータで MapInfo Pro のアクティベーションを行うときに使用できます。

アンインストール時のライセンス移動オプション

ノードロック ライセンスを所有している場合、MapInfo Pro をアンインストールするときに、ライセンスを Pitney Bowes Inc. に移動することができます。

MapInfo Pro を別のコンピュータにインストールする予定である場合は、ライセンスを Pitney Bowes Inc. に移動することによって、そのライセンスが後で使用できるようにしておきます。目的のコンピュータに MapInfo Pro をインストールしたとき、製品のアクティベーションが促されます。

MapInfo Pro を同じコンピュータに再インストールする場合は、ライセンスを移動しないでください。再インストールするだけで、アクティベーションしなくても同じライセンスを使うことができます。

MapInfo Pro のアンインストールを開始すると、**[ライセンスを今すぐに移動しますか?]**ダイアログボックスが表示されます。

以下のいずれかを実行します。

- ライセンスを **Pitney Bowes** に移動するには、**[はい]** をクリックします。
ライセンス移動ウィザードに従って移動処理を実行します。詳細については、「[ライセンスを別のコンピュータに移動する](#)」を参照してください。
- ライセンスをこのコンピュータに保持するときは、**[いいえ]** をクリックします。
アンインストール処理が継続されます。MapInfo Pro を再インストールするだけで、アクティベーションしなくてもライセンスを再使用できます。

同時使用ライセンス

同時使用ライセンスでは、任意の数のコンピュータに MapInfo Pro をインストールできます。MapInfo Pro を同時に実行できるコンピュータの数は、組織がインストールしてメンテナンスしているライセンス サーバによって、組織の購入した同時使用ライセンス数に制限されます。

注: Citrix インストールには、同時使用ライセンスが必要です。

同時使用ライセンス方式では、MapInfo Pro を実行する前に、ネットワーク上のライセンス サーバに接続してライセンスをチェックアウトする必要があります。ライセンスのチェックアウトとは、ライセンスサーバからライセンスを取得することを意味します。ライセンスサーバに接続するには、ライセンスサーバのマシン名とポート番号を指定する必要があります。これらの情報は、インストール時または MapInfo Pro を初めて実行したときに指定できます。ライセンスサーバとの接続が確立されると、自動的にチェックアウトが実行されます。

ライセンスサーバのインストールとメンテナンスは組織のライセンスサーバ管理者が行います。また、ライセンスサーバ管理者は、次の作業も行う必要があります。

- ライセンスサーバをアクティブ化して、ライセンスをチェックアウトできるようにする。
- ライセンスサーバのマシン名とポート番号をユーザに通知する。

ライセンス サーバへの接続

組織の購入ライセンスが MapInfo Pro の同時使用ライセンスの場合は、ライセンス サーバに接続して製品を実行する必要があります。

ライセンス サーバに接続するには、MapInfo Pro にライセンス サーバ名とポート番号を設定する必要があります。この情報は、ライセンス サーバ管理者から与えられます。

インストール時の接続

インストールプログラムを実行すると、ライセンス サーバ名とポート番号を指定する画面が表示されます。インストール時にライセンス サーバ名とポート番号がわかっている場合は、この時点で入力してください。MapInfo Pro を起動すると、ライセンス サーバに接続され、ライセンスが自動的にチェックアウトされます。

MapInfo Pro のインストール時にライセンス サーバ名とポート番号がわかっていないときは、この情報を入力せずにインストールを続行します。MapInfo Pro を起動するときサーバに接続するので、その機会を利用してください。

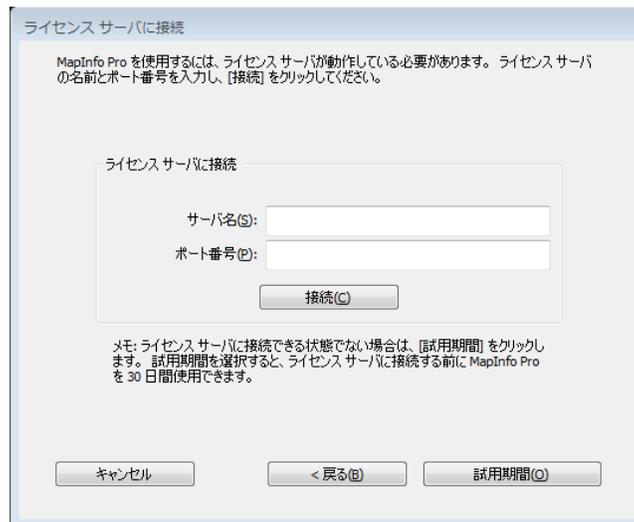
インストール後の接続

製品のインストール時にライセンスサーバ名とポート番号を指定しなかった場合は、後で MapInfo Pro を起動したときにこの情報が要求されます。また、インストール時に指定したサーバ名とポート番号を使用して稼働中のライセンス サーバに接続できない場合も、この情報が要求されます。

MapInfo Pro をインストールした後にライセンス サーバに接続するには

1. MapInfo Pro を起動します。

【ライセンス サーバに接続】 ダイアログ ボックスが表示されます。



ライセンスサーバ名とポート番号がわかっている場合は、ここに示す手順に従います。わからない場合は、「[試用期間の開始](#)」を参照してください。

注: サーバ名は、ライセンスサーバをインストールしたマシンの名前または IP アドレスです。
 \\yourlicenseserver の形式で入力します。デフォルトのポート番号は 27000 ですが、この設定はライセンスサーバのシステム管理者が行うことができます。このポート番号が使用できない場合は、管理者に問い合わせてください。

2. ライセンスサーバの名前を [サーバ名] フィールドに入力します。
3. ポート番号を [ポート番号] フィールドに入力します。
4. [接続] をクリックします。

MapInfo Pro がライセンスサーバに接続してライセンスをチェックアウトするのに数分かかります。

ライセンスのチェックアウト処理が完了すると、**[ライセンスサーバに接続]** ダイアログボックスが閉じられます。MapInfo Pro のライセンスが認められ、使用可能になります。ライセンスサーバとの接続が確立すると、ライセンスは MapInfo Pro を起動したとき自動的にチェックアウトされます。

試用期間の開始

ライセンスサーバ名とポート番号がわからないときに MapInfo Pro を使用したい場合は、30 日間の試用期間を利用できます。この期間中は、ライセンスサーバに接続することなく MapInfo Pro を使用できます。

試用期間を利用して MapInfo Pro を実行するには

1. MapInfo Pro を起動します。

2. **[ライセンス サーバに接続]** ダイアログ ボックスで、**[試用期間]** をクリックします。
試用期間が正常に開始されたことを示すアクティベーション メッセージが表示されます。
 3. **[OK]** をクリックします。
- 試用期間中は、いつでも MapInfo Pro を使うことができます。

接続エラー

ライセンス サーバへの接続の失敗には、いくつかの理由が考えられます。

まず、ライセンスサーバ名とポート番号がわかっているにもかかわらず、これをライセンスサーバ管理者がインストールしていないことがあります。この場合、MapInfo Pro は、指定されたライセンスサーバを検索できません。MapInfo Pro を使用するには、試用期間を開始しておき、ライセンスサーバがインストールされて稼働状態になった段階でライセンスサーバに接続します。

また、ライセンスサーバが別のコンピュータに移動された場合もエラーとなります。たとえば、前回ライセンスサーバに接続できても、その後にライセンスサーバが移動されると、以前使用してきた MapInfo Pro を使用できなくなります。MapInfo Pro は、それまでの場所でライセンスサーバを検索するからです。MapInfo Pro の起動時にライセンスサーバに接続できないと、**[ライセンスサーバに接続]** ダイアログ ボックスが表示されます。詳細については、「[インストール後の接続](#)」を参照してください。有効なライセンスサーバ名をライセンスサーバ管理者に問い合わせてください。

その他、すべてのライセンスがチェックアウトされている場合も MapInfo Pro を実行できません。ライセンスサーバには接続できますが、ライセンスがすべて使用中のため、チェックアウトすることはできません。ライセンスが使用可能になるのを待ってチェックアウトする必要があります。

同時使用ライセンスの借用

同時使用ライセンスを借用できる場合があります。ライセンスを借用すると、コンピュータがライセンスサーバに接続できないときでも MapInfo Pro を使用できます。たとえば、MapInfo Pro がインストールされているラップトップを持ってオフィスから外出する場合、外出中に MapInfo Pro を使用するライセンスを借用できます。同時使用ライセンスで借用が許可されているかどうかについては、ライセンスサーバ管理者にお問い合わせください。

ライセンスを借用する場合は、十分に猶予のある MapInfo Pro の借用期間を指定する必要があります。返却前に期限が切れたライセンスは自動的にライセンスサーバに返却されます。再びネットワークに接続してライセンスをチェックアウトするまで、MapInfo Pro を使用することができなくなります。

ライセンスを借用するには、借用ライセンスを使用するコンピュータに MapInfo Pro がインストールされていて、そのコンピュータがライセンスサーバに接続されている必要があります。

ライセンスを借用するには

1. MapInfo Pro を起動します。
2. [PRO] メニューで、[ライセンス]をポイントします。[ライセンスを借用] をクリックして、**[MapInfo Pro ライセンスをサーバから借用]** ダイアログ ボックスを開きます。
3. ライセンスを借用する日数を指定します。日数は、管理者が設定した最長借用期間から指定できます。
4. [ライセンスを借用] をクリックします。
しばらくして、ライセンスがサーバから正常に借用されたことを示すアクティベーションメッセージが表示されます。
5. [OK] をクリックします。

指定した借用期間の間、ネットワークに接続せずにこのコンピュータ上で MapInfo Pro を使用できます。

注: ライセンス サーバのライセンス借用期間は 1 日から 365 日の間で設定できます。デフォルトは 365 日です。ライセンス サーバユーティリティに期間を設定したら、最大でその日数の間 MapInfo Pro のライセンスを借用できます。

借用したライセンスの返却

借用したライセンスを返却するには、借用ライセンスを使用しているコンピュータをネットワークに再接続する必要があります。ネットワークに接続していない場合、[借用したライセンスを返却] コマンドは使用できません。

借用したライセンスを返却するには

1. コンピュータをネットワークに再接続します。
2. MapInfo Pro を起動します。
借用したライセンスの期限が切れる日付がダイアログ ボックスに表示されます。
3. [OK] をクリックします。
4. [PRO] タブで、[ライセンス]、[借用したライセンスを返却]を選択します。
[借用したライセンスをライセンス サーバーへ返却] ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスには、ライセンスの返却方法が示されます。
5. [OK] をクリックします。
ライセンスがライセンス サーバに返却されたことを示すアクティベーション メッセージが表示されます。
6. [OK] をクリックします。

配布可能ライセンス

配布可能ライセンス モデルは、企業が MapInfo ライセンス サーバ (MapInfo Pro DVD またはダウンロードによってインストール可能) を使用して永久ライセンスを "配布" できるようにするものです。このモデルは、電子メールや Pitney Bowes FNO サーバへのアクセスに制限があるお客様を対象としています。配布ライセンスのアクティベーション手順は、ライセンス サーバを用いた他のモデルの手順と似ています。ライセンス サーバのインストール手順については、ライセンス サーバの『ユーザーズ ガイド』を参照してください。

別のコンピュータに移動する場合など、配布ライセンスをライセンス サーバに返却することもできます。これらの手順については、「[配布ライセンスの移動](#)」を参照してください。

配布ライセンスのアクティベーションを開始する前に、ライセンス サーバの管理者から以下の情報を手に入れてください。

- 正しいシリアル番号とアクティベーション コード
- ライセンス サーバのマシン名
- サーバのポート番号

以上で、配布ライセンスのインストールとアクティベーションを開始できます。

配布ライセンスのアクティベーション

MapInfo ライセンス サーバが稼働していることを確認します。稼働中のサーバにアクティベーションの行われた必要なライセンスが存在しているか確認します。

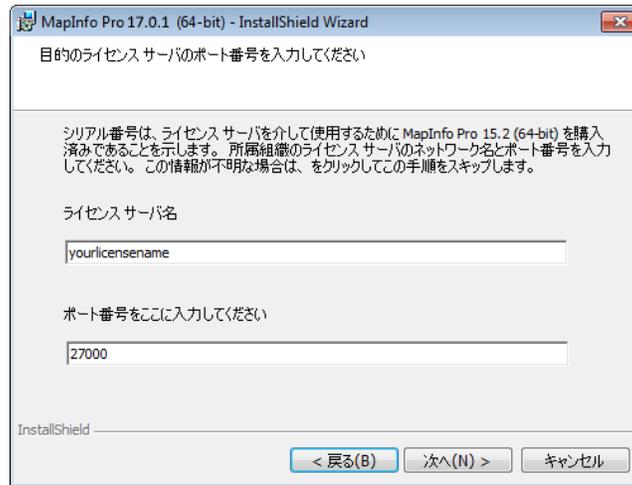
配布ライセンスをアクティベーションするには

1. 他のライセンス モデルのときと同じようにして、MapInfo Pro のインストールを開始します。
2. シリアル番号とアクセス コードを要求されたら、配布ライセンスのシリアル番号とアクティベーション コードを入力します。

配布ライセンスのシリアル番号は "MID" または "MAD" で始まります。

3. [次へ] をクリックします。

[ライセンス サーバの名前とポート] ダイアログ ボックスが表示されます。



注: サーバ名は、ライセンスサーバをインストールしたマシンの名前またはIPアドレスです。
 \\yourlicenseserver の形式で入力します。デフォルトのポート番号は 27000 ですが、この設定はライセンスサーバのシステム管理者が行うことができます。このポート番号が使用できない場合は、管理者に問い合わせてください。

4. ライセンスサーバの(マシン)名を [ライセンスサーバ名] フィールドに入力し、ポート番号を [ライセンスサーバポート番号] フィールドに入力するか、デフォルトのエントリをそのまま使用します。
5. [次へ] をクリックして続行します。
 ダイアログボックスに表示されるメッセージに従って進み、インストールを終了してください。

MapInfo Pro を初めて起動すると、以下のいずれかが行われます。

- ライセンスサーバが見つかり、シリアル番号、アクティベーションコード、そしてポート番号が間違っていないときは、起動後にアクティベーションが行われます。
- ライセンスサーバにアクセスできないか、シリアル番号またはアクティベーションコードが間違っているか、ポート番号が認識できないときは、エラーメッセージが表示されます。これらの構成要素をよく調べて間違いがないことを確認するか、システム管理者に依頼してこれらの4つの情報を確認してもらうことをお勧めします。間違った情報を訂正し、アクティベーションを再度開始します。

ライセンスのアクティベーションが完了したら、MapInfo Pro の [PRO] タブで [ライセンス] をポイントして、ライセンスの詳細を確認できます。

このパネルには、シリアル番号、アクセスコード、ライセンスの詳細が参考として示されます。

配布ライセンスまたは借用可能ライセンスのトラブルシューティング

ライセンス サーバを互換性のあるバージョンにアップグレードしていないと、配布ライセンスまたは借用可能ライセンスを使用して MapInfo Pro をアップグレードした後に以下の問題が発生します。

- MapInfo Pro がライセンスを借用できない。
- MapInfo Pro が配布ライセンスをライセンス サーバからアクティベーションできない。

このような場合は、ライセンス サーバの管理者に連絡して、MapInfo Pro と互換性のあるバージョンにライセンス サーバをアップグレードしてもらってください。互換性があるのは、アップグレード後の MapInfo Pro のバージョンか、それ以降のバージョンでリリースされたライセンス サーバです。

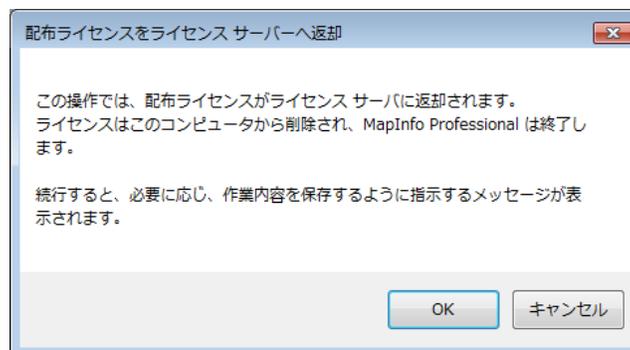
配布ライセンスの移動

ライセンスを別のコンピュータに移動する場合など、配布ライセンスをライセンス サーバに移動することができます。

注: ディスクの再フォーマットなど、PC にハードウェア上の変更を加える場合は、ライセンスを Pitney Bowes Inc. またはライセンス サーバに必ず返却するようにしてください。ハードウェアの変更後に、ライセンスのアクティベーションを再び行うことができます。

配布ライセンスをライセンス サーバに移動するには

1. [PRO] タブで、[ライセンス]、[ライセンスを移動]を選択します。
[配布ライセンスをライセンス サーバへ返却] ダイアログ ボックスが表示されます。



2. [OK] ボタンをクリックして配布ライセンスをサーバへ移動します。

まだ保存していないか、開いている MapInfo テーブル データがある場合は、[更新データの保存] ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスでデータを保存するか破棄してから、ライセンスをライセンスサーバに移動することができます。データを保存または破棄するオプションをクリックします。

- [保存] をクリックすると、開いているテーブルのデータが保存されます。
- [すべてを保存] をクリックすると、関係するすべてのデータ テーブルの未保存データが保存されます。
- [廃棄] をクリックすると、変更データを保存せずに開いているテーブルが閉じられます。
- [すべて廃棄] をクリックすると、変更データを保存せずに開いているすべてのテーブルが閉じられます。

このダイアログ ボックスのオプションを選択した後、移動が続行します。

注: ライセンスの返却後、アプリケーションは終了します。MapInfo Pro はまだコンピュータにインストールされているので、アプリケーションを再び起動すると、別の配布ライセンスのアクティベーションが試みられます。使用可能なライセンスがない場合、試用ライセンスを 30 日間だけ使うことができます。

A - システム管理者のためのワークグループインストール

MapInfo Pro は、ユーザ データをマップに配置して空間成分を持つデータの経営分析を容易に行えるようにするデスクトップ アプリケーションです。このセクションでは、アプリケーション データ リソース (座標系情報やテンプレート) をユーザ間で共有できるようにする MapInfo Pro ネットワーク共有ワークグループのセットアップ手順を説明します。これらのリソースを共有することで、ユーザ マップの外観を統一し、そのデータに一貫性を持たせることができます。

このワークグループ インストール プロセスは、次の 2 ステップで行われます。

- システム管理者は、アプリケーション データ ファイルを保管する共有ロケーションを設け、さらにユーザが各自のコンピュータに自分で MapInfo Pro をインストールするときの手順を定めます。セットアップを開始する前に、「[ワークグループのインストールプロセスについて](#)」を参照してください。セットアップを開始するときは、「[ワークグループインストールの開始\(システム管理者\)](#)」を参照してください。
- ユーザは、各自のコンピュータにアプリケーションをインストールし、自分が使うアプリケーション データ ファイルの保管されている共有ロケーションを指示します。ワークグループ インストールを終了するには、「[ワークグループ インストールの終了 \(MapInfo Pro ユーザ\)](#)」に進んでください。

このセクションの構成

ワークグループのインストール プロセスについて	59
ワークグループ インストールの開始 (システム管理者)	60
ワークグループ インストールの終了 (MapInfo Pro ユーザ)	63

ワークグループのインストール プロセスについて

このワークグループ インストールにおいて、ユーザはプログラムをローカルにインストールする一方で、アプリケーション データ ファイル (MAPINFOW.PRJ ファイルやカスタム シンボルなど) を共有ネットワーク ロケーションから取り出すことができます。このモデルを使えば、すべてのユーザが座標系の設定やテンプレート、カスタム シンボルなどを共有できます。

ワークグループインストールプロセスは2つのステップからなり、ユーザには次のいずれかの方法を選択してもらうことになります。

- ネットワークのどこか特定の場所にある MapInfo Pro をインストールしてもらう
- ユーザのために用意した DVD から MapInfo Pro をインストールしてもらう

MapInfo Pro DVD の内容を別の場所にコピーする場合は、MI_PRO フォルダと Pro_WG フォルダを同じ場所にコピーしてください。ワークグループ インストールは、MI_Pro フォルダに依存します。したがってこの2つのフォルダが同じ親ディレクトリの下に存在する必要があります。2つのフォルダが同じ場所に存在しない場合、ワークグループ インストールは、アプリケーション データ ファイルのみをインストールします。

この作業に関して何か不明な点や問題がある場合は、『*MapInfo Pro ユーザーズ ガイド*』を参照して、Pitney Bowes の電話相談窓口を調べてください。

注: ワークグループインストール プロセスでは、システム管理者が Vista の要件に対応するために、共通に利用されるファイルを中央の共有ロケーションに保管できるようにします。

アプリケーション データ ファイルとは

アプリケーション データ ファイルは、MapInfo マップの外観や基本的な設定を変更するユーザ ファイルです。具体的には次のものがあります。

- カスタム シンボル
- レイアウト テンプレート
- 構成ファイル:
 - MAPINFOW.ABB (略語ファイル)
 - MAPINFOW.CLR (カラー ファイル)
 - MAPINFOW.FNT (フォント ファイル)
 - MAPINFOW.MNU (メニュー ファイル)
 - MAPINFOW.PEN (ペン ファイル)

- MAPINFOW.PRJ (投影法ファイル)
- 主題図テンプレート
- Web Feature Server (WFS)、Web Map Server (WMS)、Web Map Tile Service (WMTS)、Catalog Server for the Web (CSW) のリスト、および Pitney Bowes Global Geocoder サービス。

ワークグループ インストールの開始 (システム管理者)

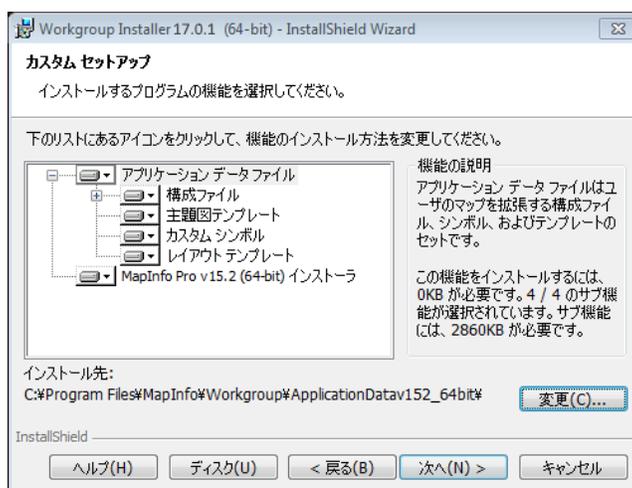
次の手順でワークグループ インストールを準備します。

1. インストール DVD を挿入し、[製品のインストール] タブで、[MapInfo Pro]、[MapInfo Pro ワークグループ]、[MapInfo ワークグループのインストール]を選択します。

インストールを続けてよいかどうかをたずねるメッセージが表示される場合があります。[許可] または [はい] をクリックして次に進みます (何も応えずタイムアウトになると、インストールが中断されます)。

2. ワークグループインストーラの[ようこそ]ダイアログボックスで、[次へ]をクリックします。
3. [使用許諾契約] ダイアログボックスの[同意する]をクリックし、[次へ]をクリックします。
4. [カスタムセットアップ] ダイアログボックスでは、機能のインストール方法 (インストールするかどうかやインストール先) が選択できます。以下のいずれかのオプションを選択して機能のインストール方法をカスタマイズするか、デフォルトの設定をそのまま使用します。[次へ] をクリックして続行します。

- 一部のファイルタイプでファイルを共有しないようにする場合や、アプリケーションデータのインストール先フォルダを変更する場合は、[アプリケーションデータファイル] オプションを選択します。詳細については、「[\[アプリケーションデータファイル\] オプション](#)」を参照してください。
- インストール先フォルダを変更するには、[MapInfo Pro v17.0.1 (64 ビット) インストーラ] オプションを選択します。詳細については、「[MapInfo Pro v17.0.1 \(64 ビット\) インストーラのオプション](#)」を参照してください。



5. [プログラムをインストールする準備ができました] ダイアログ ボックスの [インストール] をクリックします。
6. [完了] ダイアログ ボックスで、[完了] をクリックします。
7. 以下のいずれかを実行します。

- インストール ファイルをローカルな場所に保管した場合は、そのローカルフォルダの内容で各ユーザの MapInfo Pro インストール DVD を作成します。そのディレクトリ内のインストール ファイルと共に mode.xml ファイルも必ずコピーしてください。
- インストール ファイルをネットワークに保管した場合は、ネットワーク上の場所を各ユーザに知らせ、MapInfo Pro を各自がローカルにインストールできるようにします。

この作業過程で作成される mode.xml ファイルに、アプリケーション データ ファイルの場所として設定した共有ロケーションが記録されています。ユーザが MapInfo Pro を初めて開いたとき、この共有ロケーションのパスが mode.xml ファイルからユーザのコンピュータのレジストリにコピーされます。これらのファイルのネットワーク ロケーションを変更する必要がある場合は、「[インストール後の共有ロケーションの変更](#)」の手順に従ってください。

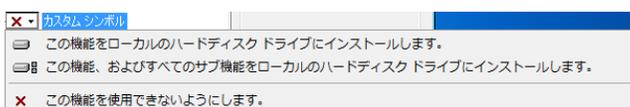
注: ユーザから製品のシリアル番号の問い合わせがあった場合は、MapInfo Pro の外箱を調べてください。シリアル番号は、それらを保管しておく必要がある場合、付属のカードにも記載されています。

アプリケーション データ ファイルはローカル側にも保管されるので、共有フォルダが使用できないときローカルのファイルを使うことができます。次のセクションでは、この詳細を説明します。

[アプリケーション データ ファイル] オプション

ワークグループのインストール時に、デフォルトではすべてのアプリケーションデータファイルが選択されます。ただし、**[カスタム セットアップ]** ダイアログ ボックスで、インストールするアプリケーション データ ファイルを次のように指定できます。

- 一部のファイル タイプでファイルを共有しないようにするには、ファイル タイプの横のドロップダウン矢印をクリックし、リストから **[この機能を使用できないようにします。]** を選択します。(共有ロケーションにインストールしないファイルについては、ファイルのローカルコピーが使われます)。



- アプリケーションデータのインストール先フォルダを変更するには、**[アプリケーションデータ ファイル]** 項目を強調表示し、**[変更]** をクリックします。

選択を行うと、**[インストール先フォルダの変更]** ダイアログ ボックスが表示されます。これらのファイルを保管する共有ロケーションまで移動し、**[OK]** をクリックします。この共有ロケーションを、これらのファイルを必要とするすべてのユーザからアクセスできるようにしてください。共有に新しいテンプレートやカスタム シンボルを追加するユーザは、読み取り/書き込みアクセス権が必要です。

注: ユーザが MapInfo Pro をインストールすると、これらの同じアプリケーションデータ ファイルがローカルにも保管されます。これで、ユーザは共有フォルダを使用できないときも、これらのファイルにアクセスできます。詳細については、「[ワークグループインストールの終了 \(MapInfo Pro ユーザ\)](#)」を参照してください。

MapInfo Pro v17.0.1 (64 ビット) インストーラのオプション

インストール先フォルダを変更するには

- [MapInfo Pro v17.0.1 (64 ビット) インストーラ]** オプションを強調表示して、**[変更]** ボタンをクリックします。
- [インストール先フォルダの変更]** ダイアログ ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。

- ユーザに DVD から MapInfo Pro をインストールしてもらう場合は、ローカルのインストール先フォルダを選択し、[OK] をクリックします。

選択したローカルフォルダに MapInfo Pro インストールファイルがコピーされます。コピーが終わったら、このローカルフォルダにコピーされたインストールファイルで各ユーザのインストール DVD を作成できます。その後、それらの DVD を各ユーザに配布すれば、各ユーザが MapInfo Pro のインストールを開始できます。

- ユーザに中央のネットワーク ロケーションから MapInfo Pro をインストールしてもらう場合は、ネットワーク ロケーション フォルダを選択し、[OK] をクリックします。

選択したネットワークフォルダに MapInfo Pro インストールファイルがコピーされます。コピーが終わったら、このネットワークフォルダのことを各ユーザに知らせ、ユーザが MapInfo Pro のインストールを開始できるようにします。

ワークグループ インストールの終了 (MapInfo Pro ユーザ)

ワークグループ インストールを終了するには、以下のいずれかの作業を行います。

- システム管理者からインストール用の DVD を受け取った場合は、そのメディアをコンピュータのドライブに挿入し、「[MapInfo Pro のインストール](#)」の手順に従います。
- システム管理者によって MapInfo Pro インストーラがネットワークのどこかに置かれている場合は、そのネットワーク ロケーションまで移動し、「[MapInfo Pro のインストール](#)」の手順に従います。

ワークグループ インストールについて

MapInfo Pro をワークグループの一部としてインストールすると、組織の他のユーザとの間で共通に利用するファイルを共有することになります。ワークグループでは、相互にコピーしなくても、同じ構成ファイル、テンプレート ファイル、カスタム シンボル ファイルが使われます。この方法は、ワークグループの個々のメンバが、より一貫性のあるマップを作成するための基礎となります。

MapInfo Pro インストーラは、アプリケーションをインストールする際、共有ロケーションが使用できないときに備えて、これらのアプリケーション データ ファイルのローカル コピーを作成します。ここは特に重要な点です。

- アプリケーション データ ファイルの共有ロケーションを使用できる場合、MapInfo Pro はテンプレート、シンボル、および構成データを共有ロケーションに保存します。
- アプリケーション データ ファイルの共有ロケーションを使用できない場合、MapInfo Pro はテンプレート、シンボル、および構成データをこれらのファイルのローカルコピーに保存します。

注: MapInfo Pro を初めて開いたとき共有ロケーションが使用できないと、ローカルのアプリケーション データ ファイルを使うという趣旨のエラー メッセージが表示されます。必要に応じて、「[インストール後の共有ロケーションの変更](#)」の手順に従って新しい共有ロケーションを選択できます。

通常は共有ロケーションにアクセスするので、これが問題になることはありません。しかし、ローカルなアプリケーションデータファイルに変更を加え、その後、共有ロケーションが使用できるようになった場合は、変更内容を共有ロケーションにコピーすることをお勧めします。これで自分だけでなく同僚にも必要なファイルを使わせることができます。

主題図テンプレート ファイルに関する注意事項

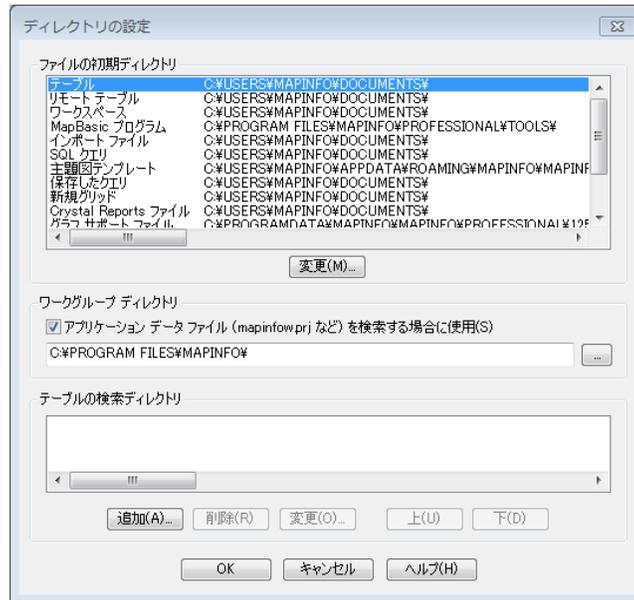
主題図テンプレート ファイルがどこで検索されるかは、**[ディレクトリの設定]** ダイアログ ボックスのフォルダの設定で決まります。ネットワーク ロケーションにこれらの設定がない場合、ファイルはローカルで検索されます。

インストール後の共有ロケーションの変更

インストール後に、これらのファイルの共有ロケーションを変更するには、**[ディレクトリの設定]** ダイアログボックスを使います。ワークグループの各ユーザは、この手順に従って、これらの共有ファイルをメンテナンスする必要があります。

ワークグループ ユーザのアプリケーション データ ファイルの場所を変更する手順は次のとおりです。

1. MapInfo Pro を起動します。
2. **[PRO]** タブで、**[オプション]**、**[ディレクトリ]**を選択します。**[ディレクトリの設定]** ダイアログ ボックスが表示されます。



注: 共有ロケーションは [ワークグループ ディレクトリ] フィールドに表示されます。

3. 次のいずれかの方法でワークグループ フォルダをリセットします。

- 新しい共有ロケーションを設定するには、[アプリケーション データ ファイルを検索する場合に使用] チェック ボックスをオンにしてフィールドに新しいパスを入力するか、 をクリックして新しい共有パスを選択します。[ワークグループ ディレクトリ] セクションにドライブの名前または UNC パスを入力することもできます。
- ローカル ファイルのみを使用するには、[アプリケーション データ ファイルを検索する場合に使用] チェック ボックスをオフにします。

4. [OK] をクリックして変更を確認します。

指定した新しいパスがレジストリに保存されます。その後、MapInfo Pro を開くたびに、この新しいパスを用いてアプリケーション データ ファイルがアクセスされます。

B - サイレント インストール手順

この章では、システム管理者がコマンドラインから MapInfo Pro をインストールする方法について説明します。

注: MSIEXEC コマンドを操作するために Microsoft でサポートされるすべてのパラメータに関するドキュメントは、Microsoft の Web サイトで参照できます。詳細な情報を取得するには、キーワード「MSIEXEC コマンド ライン パラメータ」を検索してください。

このセクションの構成

システム管理者のためのサイレント インストール手順	67
サイレント インストール	69
ライセンスのサイレント アクティベーションおよびサイレント返却	71
サイレント アンインストール	74

システム管理者のためのサイレント インストール手順

サイレント インストールでは、会社内での配布用に MapInfo Pro を再パッケージ化して、ユーザまたは会社に固有の情報、パス情報、シリアル番号、またはアクセス コードをユーザが入力しなくても済むようにすることができます。

注: このインストール モデルを用いて MapInfo Pro を導入するためのファイル共有については、「[システム管理者のためのワークグループ インストール](#)」を参照してください。

以下のステップで使用する MapInfo Pro のインストール用 setup.exe は、インストール DVD (D:\) の次のディレクトリに格納されています。

`\Install\MI_PRO\DISK1`

サイレント インストールでは次の操作を行います。

1. インストール DVD をターゲット コンピュータのディスク ドライブに挿入します。
2. ターゲット コンピュータ上で、コマンド ラインに次のコマンドを入力します。

```
"[ドライブとパス]\setup.exe" /s /v"[MSI のパラメータ]"
```

[MSI のパラメータ] は、msiexec に対して設定するパラメータです。

次に例を示します。

```
"d:\Install\MI_PRO\DISK1\setup.exe" /s /v"/qb INSTALLDIR="C:\Program Files\MapInfo\Professional"  
USERNAME="MyUser" COMPANYNAME="MyCompanyName" PIDKEY=MySerialNumber  
ACCD=MyAccessCode"
```

ここで

64 ビット オペレーティング システムでは、デフォルトのインストール パスは `INSTALLDIR="C:\Program Files\MapInfo\Professional"` です。

パラメータ /qb は、基本インターフェイスを使用してインストールを開始するよう msiexec コマンドに対して指示します。これにより、ユーザの操作は不要になり、ユーザはオペレーティング システムのユーザ アカウント制御 (UAC) に対して応答できるようになります。

変数=変数の内容を示す文字列にはスペースを挿入しないでください。スペースは、パラメータのセパレータとして使用されます。

ユーザ情報用のパラメータ:

- USERNAME = ユーザ名
- COMPANYNAME = 会社名

インストール先情報用のパラメータ:

- `INSTALLDIR` = インストール先ディレクトリ

ライセンス情報用のパラメータ:

- `PIDKEY` = シリアル番号
- `ACCD` = アクセス コード
- `LSNAME` = ライセンス サーバの名前
- `LSPN` = ライセンス サーバのポート番号

ノードロックライセンスと配布ライセンスをサイレント方式でアクティベーションするためのパラメータ:

- `ACTLIC = True` ノードロックライセンスおよび配布ライセンスをサイレント方式で自動アクティベーションします。
- `RETLIC = True` サイレント方式でライセンスを返却します。
- `LICLOG` = ログ ファイルのファイル名
- `BORROW` = 日数または `True` 特定の日数を入力しない場合、`True` が有効な入力となり、これが日数になります。
- `SDRLYN = False` ユーザがアンインストールするときに、ライセンス移動のダイアログが重複しないようにするには、`SDRLYN (Show Dialog Return License Yes No)` パラメータを使用します。
`RETLIC = True` 以外の場合、ライセンスはコンピュータに残されます。

注: パラメータ `ACTLIC` および `RETLIC` はデフォルトで `False` に設定されます。

英語の言語設定用のパラメータ:

- `LANGCS = ENUS` または `ENUK` デフォルトは、コンピュータの地域設定オプションに基づきます。アメリカ英語 (`ENUS`) 以外に設定されている場合は、イギリス英語 (`ENUK`) が設定されます。

同時使用ライセンス用のパラメータ

同時使用ライセンスでサイレントインストールを行う場合は、ライセンスサーバ名とライセンスサーバポート番号のパラメータを指定する必要があります。

1. インストール DVD をターゲット コンピュータのディスク ドライブに挿入します。
2. コマンド プロンプトで、MapInfo Pro セットアップ ディレクトリに移動します。
3. 次のコマンドを入力します。

```
"[ドライブとパス]\setup.exe" /s /v"[MSI のパラメータ]"
```

[MSI のパラメータ] は、msiexec に対して設定するパラメータです。

次に例を示します。

```
"d:\Install\MI_PRO\DISK1\setup.exe" /s /v"/qb INSTALLDIR="C:\Program Files\MapInfo\Professional"  
LSNAME="mylicenseserver" LSPN=mylsportnumber PIDKEY=MySerialNumber  
ACCD=MyAccessCode"
```

ここで

64 ビット オペレーティング システムでは、デフォルトのインストール パスは
INSTALLDIR="C:\Program Files\MapInfo\Professional"です。

パラメータ /qb は、基本インターフェイスを使用してインストールを開始するよう msiexec コマンドに対して指示します。これにより、ユーザの操作は不要になり、ユーザはオペレーティング システムのユーザ アカウント制御 (UAC) に対して応答できるようになります。

変数=変数の内容を示す文字列にはスペースを挿入しないでください。スペースは、パラメータのセパレータとして使用されます。

ライセンス情報用のパラメータ:

- PIDKEY = シリアル番号
- ACCD = アクセス コード
- LSNAME = ライセンス サーバの名前
- LSPN = ライセンス サーバのポート番号

サイレント インストールを実行する場合は、適切なシリアル番号とアクセスコードに置き換えてください。

実行するインストールの種類に該当する指示に従います。

サイレント インストール

MapInfo Pro の完全なサイレント インストールを行うには、インストール プロセスに管理者権限が付与されている必要があります。

ユーザ アカウント制御 (UAC) が有効で、インストール プロセスが管理者権限で実行されていない場合、コマンド ライン オプション /q および /qn は機能しません。これらのオプションはインストール中のユーザ インターフェイスを無効にしますが、これは Windows の UAC の動作を妨げます。ユーザは UAC と対話して、インストールを管理者として実行するために必要な資格情報を提供する必要があります。ユーザ インターフェイスが無効に設定されている場合、UAC が適切な資格情報を取得できないため、インストールは警告なしで終了します。

この問題を迂回するには、サイレント インストールを実行するときにコマンドラインで /qb オプションを使用します。このオプションを指定すると、インストールが基本ユーザインターフェイスで実行されるため、UAC からのメッセージがダイアログ ボックスに表示されます。

/qb オプションを使用してサイレント インストールを行うには

1. インストール DVD をターゲット コンピュータのディスク ドライブに挿入します。
2. コマンド プロンプトで、MapInfo Pro セットアップ ディレクトリに移動します。
3. 次のコマンドを入力します。

```
setup.exe /s /v"/qb USERNAME=\"MyUser\" COMPANYNAME=\"MyCompanyName\"
PIDKEY=M##### ACCD=#####"
```

意味は次のとおりです。

PIDKEY=M##### は製品シリアル番号

ACCD=##### はアクセス コード

4. ユーザ アクセス制御がダイアログ ボックスに表示されたら、[許可] または [はい] をクリックします。

同時使用ライセンスの場合、ライセンスサーバ名とポート番号を指定するパラメータも含める必要があります。

SNAME="LicenseServerName"

LSPN="LicenseServerPortNumber"

サイレント インストールを実行する場合は、適切なライセンス サーバ名とポート番号に置き換えてください。

RSS レジストリ キーのインストール

RSS レジストリ キーを指定してサイレント インストールを行うと、MapInfo Pro が最初に起動するときに表示される製品通知ウィンドウを定義できます。製品通知の詳細については、「*MapInfo Pro* ヘルプ」を参照してください。レジストリ キーは、FeedTimeOut、ProductUpdate、ProductUpdateFrequency、NewsFeed、NewsFeedFrequency の 5 つです。

コマンドラインで別途指定しない限り、インストーラは RSS レジストリ キーにデフォルト値を使用します。コマンドラインパラメータは、FEEDTIMEOUT、PRODUCTUPDATE、PRODUCTUPDATEFREQUENCY、NEWSFEED、NEWSFEEDFREQUENCY の 5 つです。

RSS レジストリ キーを指定してサイレント インストールを行うには

1. コマンド プロンプトで、MapInfo Pro セットアップ ディレクトリに移動します。
2. 次のコマンドを入力します。

```
setup.exe /s /v"/qb FEEDTIMEOUT=xx PRODUCTUPDATE=xx  
PRODUCTUPDATEFREQUENCY=xx NEWSFEED=xx NEWSFEEDFREQUENCY=xx  
PIDKEY=M##### ACCD=#####"
```

意味は次のとおりです。

PIDKEY=M##### は製品シリアル番号

ACCD=##### はアクセスコード

xx はパラメータ値で、次のように指定します。

- FEEDTIMEOUT=1 ~ 60
- PRODUCTUPDATE=0 または 1。PRODUCTUPDATE=1 の場合、メンテナンス パッチの確認が有効になります。
- PRODUCTUPDATEFREQUENCY=1 ~ 90
- NEWSFEED=0 または 1。NEWSFEED=1 の場合、Pitney Bowes 関連のニュースの確認が有効になります。
- NEWSFEEDFREQUENCY=1 ~ 15

必須パラメータの PIDKEY と ACCD は、コマンドで必ず指定してください。指定しないとエラーメッセージが表示されます。いずれかのパラメータに無効な値を入力すると、エラーメッセージが表示されてセットアップが中止されます。

ライセンスのサイレント アクティベーションおよびサイレント返却

IT エンジニアは、MapInfo Pro のノード ロック ライセンスまたは配布ライセンスをサイレントでアクティベーションまたは返却し、ログ ファイルを参照することができます。このセクションで説明する返却プロセスでは、借用したライセンスをサーバに返却することもできます。このセクションでは、こうしたプロセスについて説明します。

コマンドラインからのノードロックライセンスまたは配布ライセンスのアクティベーション

お使いの PC にハードウェアに関する変更 (ディスクの再フォーマットなど) を加える場合は、アクティベーションされたライセンスを Pitney Bowes またはライセンス サーバに事前に返却して

ください。ハードウェアの変更後に、ライセンスのアクティベーションを再び行うことができます。

ノード ロック ライセンスは、Pitney Bowes FNO サーバから取得する永久ライセンスです。配布ライセンスは、会社で所有するライセンスサーバから取得する永久ライセンスです。ここで説明するプロセスは、両方のライセンスのアクティベーションに適用できます。

ノード ロック ライセンスまたは配布ライセンスのサイレント アクティベーションを行うには

1. クライアント コンピュータに MapInfo Pro をインストールするうえで必要な情報 (適切なシリアル番号やアクセスコードなど) を集めます。配布ライセンスの場合は、ライセンスサーバの名前とポート番号も入力する必要があります。
2. クライアント コンピュータのコマンドラインで、次のように入力します。

```
<path to application>\MapInfoPro.exe -ActivateLicense c:\mylog.txt
```

c:\mylog.txt は、アクティベーションプロセスの詳細 (成功やエラー) を収集するログファイルのパスおよび名前です。ログファイルはオプションです。

注: 以下の例のように、ログファイルを指定しない場合は、一時フォルダに **activatelicence.log** という名前のファイルが作成されます。

以下のいずれかのイベントが発生します。

- シリアル番号が MID または MAD から始まる場合は、配布ライセンスのアクティベーションが試行されます。
- シリアル番号が MIN または MAN から始まる場合は、ノード ロック ライセンスのアクティベーションが試行されます。
- アクティベーションプロセスで、修正が必要なエラーが発生します。

アクティベーションプロセスの完了後にその結果を確認するには、任意のテキストエディタでログファイルを開きます。ログファイルに記載されるのは、次のようなメッセージです。

メッセージ	必要な作業
ノード ロック ライセンスのアクティベーションが正常に実行されました。	アクティベーション プロセスは完了しています。
配布ライセンスのアクティベーションが正常に実行されました。	アクティベーション プロセスは完了しています。
ライセンスが既にアクティベーション済みです。アクティベーションが行われた新しいライセンスはありません。	アクティベーション プロセスは完了しています。

メッセージ	必要な作業
ライセンスのアクティベーションに必要な情報(シリアル番号、アクティベーションコード、サーバの名前とポート番号)のいずれかが正しくない、もしくは、入力されていません。	ログファイルを参照して、どの要素(シリアル番号、アクティベーションコード、サーバの名前とポート番号(配布ライセンスの場合))が欠けているのか、あるいは間違っているのかを確認します。
同時使用または借用可能ライセンスであるため、アクティベーションされたライセンスはありません。	使用可能なライセンスの種類をライセンス サーバで確認します。場合によっては、クライアントは、同時使用ライセンスを取得するか、その代わりにライセンスを借用する必要があります。これらのライセンスの種類については、「 MapInfo Proの起動とアクティベーション 」を参照してください。

ライセンスの返却

ディスクの再フォーマットなど、PC にハードウェア上の変更を加える場合は、ライセンスを Pitney Bowes またはライセンスサーバに必ず返却するようにしてください。ハードウェアの変更後に、ライセンスのアクティベーションを再び行うことができます。

ノードロックライセンス、借用ライセンス、または配布ライセンスを Pitney Bowes FNO サーバまたはライセンスサーバに返却するには、コマンドラインで次のように入力します。

```
<path to application>\MapInfoPro.exe -ReturnLicense c:\mylog.txt
```

c:\mylog.txt は、返却プロセスの詳細(成功やエラー)を収集するログファイルのパスおよび名前です。ログファイルはオプションです。

以下のいずれかのイベントが発生します。

- ライセンスが Pitney Bowes FNO サーバまたはライセンスサーバに返却されます。
- ライセンスの返却を妨げるエラーが発生します。

返却プロセスの完了後にその結果を確認するには、任意のテキストエディタでログファイルを開きます。ログファイルに記載されるのは、次のようなメッセージです。

メッセージ	必要な作業
ライセンスサーバサーバ名への配布ライセンスの返却が正常に実行されました。	配布ライセンスの返却プロセスは完了しています。

メッセージ	必要な作業
ライセンス サーバ サーバ名への借用ライセンスの返却が正常に実行されました。	借用ライセンスの返却プロセスは完了しています。
ノードロックライセンスは Pitney Bowes Inc. に正常に返却されました。	ノードロックライセンスの返却プロセスは完了しています。
返却可能なライセンスがありながらも、エラーで、ライセンスが返却できなかった場合には、どのようなエラーで返却ができないのか、システムがエラーメッセージを表示します。	ログファイルでエラーの詳細を確認し、クライアントマシンまたはライセンスサーバで必要に応じて問題を解決します。
配布ライセンスが見つからなかったため、返却されたライセンスはありません。	[PRO] タブの [ライセンス] グループの下で、ライセンスが配布されていることを確認し、返却プロセスを再度実行します。
サーバライセンスが見つからなかったため、返却されたライセンスはありません。	ライセンスサーバをチェックし、ライセンスが存在することとサーバが稼働していることを確認します。その後、返却プロセスを再度実行します。
ノードロックライセンスが見つからなかったため、返却されたライセンスはありません。	[PRO] タブの [ライセンス] グループの下で、ライセンスがノードロックされていることを確認し、返却プロセスを再度実行します。

サイレント アンインストール

MapInfo Pro 17.0.1 でサイレント アンインストールを行うには、以下を実行します。

ターゲット コンピュータ上で、コマンドラインに次のコマンドを入力します。

```
msiexec.exe /x {76BBDCCA-97EA-435B-8334-C1E2320200C9} /q
```

このコマンドを実行してアンインストールされるのは、MapInfo Pro 17.0.1 のみです。それ以前のバージョンの MapInfo Pro はアンインストールされません。また、MapInfo ProViewer、MapInfo Runtime、MapBasic もアンインストールされません。

注: アンインストール キーは、MapInfo Pro の各バージョンで固有のものです。10.5 よりも前の MapInfo Pro に対してサイレント アンインストールを行うには、その製品コード (アンインストール キー) を使う必要があります。これらのキーは、レジストリ

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Uninstall\に
あります。

C - システム管理者の ための上級者向け構成 オプション

このセクションでは、システム管理者が MapInfo Pro の構成設定を行う方法を説明します。

このセクションの構成

上級者向け設定の管理	77
インストール時のアプリケーション データ ファイルの場所の管理	78
初期スタートアップ時の MapInfo Pro の設定	81

上級者向け設定の管理

MapInfo Pro には、ダイアログ ボックスでは構成できない上級者向けのシステム設定がいくつか用意されています。この設定を使用すると、MapInfo Pro の実行方法における低レベルの技術的設定を管理できます。ほとんどのユーザは、このような上級者向け設定を意識する必要はありません。

たとえば、MapInfo Pro では DDE (Dynamic Data Exchange) タイムアウト設定を使用して、DDE 通信中に他のアプリケーションとの通信を試みる時間の長さを管理できます。MapBasic アプリケーションの実行時に、DDE 通信のタイムアウト エラーが発生する場合は、DDE タイムアウト設定値を大きくして試みる事ができます。MapInfo Pro の上級者向け設定 (DDE タイムアウト設定など) のいずれかを変更するには、以下の手順に従います。

Windows レジストリの変更

MapInfo Pro では、Windows レジストリにシステム設定が保存されています。Windows レジストリを編集するには、REGEDT プログラムを使用します。

注意: レジストリの編集には細心の注意が必要です。レジストリが破損すると、オペレーティングシステムに重大な障害が発生することがあります。

たとえば、MapInfo Pro の DDE タイムアウトを設定するには、まず、レジストリ内で次のキーを検索します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\MapInfo\MapInfo\Common

そして、このキーの中の DDeTimeout 値を編集します。DDeTimeout という名前の値がない場合は、文字列型の新しい値を作成し、その値に DDeTimeout という名前を割り当てます。この値のデータとして、タイムアウト値をミリ秒単位で設定します。たとえば、「30000」と入力すると、30 秒のタイムアウトが設定されます。レジストリ編集の詳細については、REGEDIT または REGEDT32 のオンライン ヘルプを参照してください。

上級者向けレジストリ設定の説明

このセクションでは、レジストリに保存されている上級者向け設定について説明します。

注: MapInfo Pro でポリゴン モードや分割印刷を設定するには、[PRO] メニューで [オプション]、[出力設定]を選択します。

DDeTimeout=number

MapInfo Pro をクライアント (通信を開始する側のアプリケーション) とする DDE 通信のタイムアウト設定を管理します。**number** はミリ秒を表します。デフォルト値は 10,000 ミリ秒 (10 秒) です。実行中の MapBasic アプリケーションが DDE 通信を開始しようとしても、サーバアプリケーションがタイムアウト時間内に応答しないために通信に失敗した場合、この DDeTimeout 値を大きくします。

MaxORACLETTILES=number

number は 0 (ゼロ) または 1 です。この設定は、バージョン 10 より前の Oracle における Quad-Tree インデックス付きの Oracle テーブルを扱う場合に適用されます。値が 0 の場合、MapInfo Pro は空間クエリを無効とし、クライアント側のクリップを用いてすべてのレコードを返します。1 以上の値である場合は、空間クエリの精度を上げるためのジオメトリあたりの最大タイル数を表します。旧式の Quad-Tree 方式によって空間インデックスを作成する場合は、使用するタイル数を指定します。この値に使用する最大タイル数を指定することにより、検索の精度をさらに向上させることができます。

MaxFiles=number

この値は、10 ~ 507 の整数で設定し、MapInfo Pro が同時に処理できるファイル数を表します。この設定では、同時に開くことができるテーブル数ではなく、同時に編集できるテーブル数 (編集後に保存していないテーブル数) が制限されます。デフォルト値は 29 です。同時に処理するファイルの数を増やす必要がある場合は、この **number** を 507 に設定します。

MapInfo Pro の性能の向上

MapInfo Pro の性能を向上させるには、PC のプロセッサを高速にします。ビデオアクセラレータカードを使用すると、再描画の速度が速くなります。マップの最初の描画の速さは変わりませんが、それ以降の再描画は高速になります。メモリの増設と同様、高速なディスク キャッシュも性能を向上させます。

インストール時のアプリケーション データ ファイルの場所の管理

MapInfo Pro インストーラは、デフォルトでは一般ユーザにわかりやすい場所に、アプリケーション データ ファイルをインストールします。MapInfo Pro をインストールした後で、各ユーザがあらかじめ定義された別の場所にアプリケーション データ ファイルを移動しても、MapInfo Pro は移動したファイルを見つけることができます。たとえば、1 台の PC の管理者が、MAPINFOW.PEN をユーザ別領域 (デフォルトの保存場所) からインストール ディレクトリに移動すると、その PC

を使用するすべてのユーザが同じペン設定を共有できます。多数の MapInfo Pro をインストールする責任がある IT 担当者にとって、アプリケーション データ ファイルを手動で目的の場所に移動し、必要な構成を行うのは現実的ではありません。

この問題を解決するため、MODE.INIという設定ファイルを作成して、MapInfo Pro をインストールする前にアプリケーション データ ファイルの場所を指定します。

1. インストール用ファイルを、読み書き可能な場所にコピーします。
2. インストーラのルート ディレクトリに、MODE.INI ファイルを作成します。
3. 任意のテキスト エディタで MODE.INI を開きます。
4. MODE.INI ファイルを編集して、保存場所を変更したいアプリケーション データ ファイル/フォルダに関連付けられたコードを変更します。
5. MapInfo Pro をインストールします。

MapInfo Pro がサポートするアプリケーション データ ファイルに対して、あらかじめ定義されている場所と、MODE.INI で使用される対応数値コードを次に示します。

コード	説明	場所
1	ユーザ別、移動可	Current User\Application Data
2	ユーザ別、移動不可	Current User\Local Settings\Application Data
3	マシン別	All Users\Application Data
4	プログラム ディレクトリ	Install Dir

アプリケーション データ ファイル/グループと、そのデフォルトの保存場所を次に示します。

ファイル名	デフォルトの保存場所
CustSymb	ユーザ別、移動可
MapInfow.abb	プログラム ディレクトリ
MapInfow.clr	ユーザ別、移動可
MapInfow.fnt	ユーザ別、移動可

ファイル名	デフォルトの保存場所
MapInfow.mnu	プログラム ディレクトリ
MapInfow.pen	ユーザ別、移動可
MapInfow.prj	プログラム ディレクトリ
ThmTmplt	ユーザ別、移動可
WFSWMS.xml*	ユーザ別、移動可

* WFSWMS.XML というファイルは、以下の各ファイルを指します。

- MICSWServers.xml – メタデータ カタログ ブラウザ ツールに必要なファイル
- MIGeocodeServers.xml – Pitney Bowes のロケーション インテリジェンス (LI) API を通じて Software as a Service (SaaS) として提供している Pitney Bowes Global Geocoder を使用したジオコード化のためのファイル
- MIWFSServers.xml – [ホーム] タブ上で [開く]、[WFS] をクリックすると表示される WFS サーバのリストに必要なファイル
- MIWMSServers.xml – [ホーム] タブ上で [開く]、[WFS] をクリックすると表示される WMS サーバのリストに必要なファイル
- MIWMTSServers.xml – [ホーム] タブ上で [開く]、[WMTS] をクリックすると表示される WMTS サーバのリストに必要なファイル

MODE.INI ファイルの例

以下の構文でテキストファイルを作成します。

```
CustSymb = 1
ThmTmplt = 3
MapInfow.clr = 1
MapInfow.fnt = 1
MapInfow.pen = 1
MapInfow.abb = 4
MapInfow.prj = 4
MapInfow.mnu = 4
WFSWMS.xml = 1
```

注意: MapInfow.mnu を移動するためのパラメータは、32 ビット版と 64 ビット版の両方で同一で MapInfow.mnu です。

初期スタートアップ時の MapInfo Pro の設定

MapInfo Pro 用の初期セットアップ コマンドを含む、AddUser.wor という名前のワークスペース ファイルを作成できます。MapInfo Pro に読み込んで登録するカスタム ツールを作成または取得する場合は、これが便利です。ユーザが初めて MapInfo Pro を起動するときに、AddUser.wor が実行されます。複数のユーザが MapInfo Pro を使用している場合は、各ユーザに対してこのファイルが実行されます。

AddUser.wor ファイルの中では、任意の有効な WOR コマンドが使用できます。このファイルは、MapInfo Pro アプリケーション ディレクトリに保存してください (例えば、C:\Program Files\MapInfo\Professional)。

D - インストールのトラブルシューティング

このセクションでは、MapInfo Pro のインストールに関連するトラブルの解決方法について解説します。

このセクションの構成

インストールの問題	83
エラー メッセージ	84

インストールの問題

MapInfo Pro インストーラにはドライブ文字が必要

MapInfo Pro のインストーラは、明示的な UNC パスではなく、G: のようなドライブ名を指定して実行する必要があります。たとえば、USERSPC というコンピュータに MapInfo Pro DVD があるとします。他のユーザは、USERSPC という名前を使用してそのデバイスにアクセスできますが、その場合はドライブ名がありません。MapInfo Pro のインストールプログラムを起動するには、ドライブ名が必要です。

この状況に対応するには、ネットワーク ドライブに特定のドライブ文字を割り当てます。

1. Windows Explorer で、MapInfo Pro SETUP.EXE がある共有ディレクトリまたは DVD ドライブを右クリックし、[ネットワーク ドライブの割り当て]を選択します。
2. この CD-ROM に割り当てたドライブ名を選択します。
3. 新しく割り当てたドライブ名を付けて、インストールプログラムを起動します。

インストールを続けてよいかどうかをたずねるメッセージが表示される場合があります。[許可]または [はい] をクリックして次に進みます (どちらもクリックしないままタイムアウトになると、インストールは中断します)。

MapInfo PDF Printer ドライバがインストールされない

以下の場合、MapInfo PDF Printer ドライバがインストールされない可能性があります。

- IT 部門が設定したポリシーによって、プリンタをインストールできるユーザが制限されている。プリンタのインストールを禁止するポリシーが存在しないかどうかを IT 部門に問い合わせてください。プリンタのインストールを禁止するポリシーが存在する場合は、MapInfo Pro をいったんアンインストールします。次に、ポリシーの設定を一時的に変更して、コンピュータにプリンタをインストールすることを許可したら、MapInfo Pro を再インストールします。
- マルウェアまたはスパイウェア対策ソフトウェアがインストール時にオンになっている。MapInfo Pro をアンインストールします。コンピュータ上で実行されているマルウェアまたはスパイウェア対策ソフトウェアを一時的に停止した状態で MapInfo Pro を再インストールできるように IT 部門に依頼してください。

起動時の自動読み込みをオフにして起動時に発生する問題をデバッグする

MapInfo Pro の起動時に発生する問題をデバッグするには、MapInfo Pro の起動時に引数 `NoAutoLoad` を指定します。MapInfo Pro は起動時に、自動読み込み用と指定されている各ツールを自動的に読み込みます。`startup.wor`、`MapInfoPro.WOR`、`MapInfoPro.wox`、および `mapbasic` の各ツールです。MapInfo Pro を管理するシステム管理者は、MapInfo Pro をコマンドラインから引数 `NoAutoLoad` を指定して実行することで、この読み込みが行われないようにすることができます。

クライアント コンピュータのコマンドラインで、次のように入力します。

```
<path to application>\MapInfoPro.exe -NoAutoLoad
```

この方法で起動すると、起動時に発生する問題の原因を突き止めるのに役立ちます。

インストール DVD の .MSI ファイルを使用すると警告メッセージが作成されない

MapInfo Pro のサイレント インストールを実行する場合は、`setup.exe` ファイル (DVD からインストールする場合は `Install\MI_PROD\DISK1` フォルダにあります) を使用し、MapInfo Pro .msi ファイルは使用しないでください。.msi ファイルでは必要なコンポーネントがインストールされず、MapInfo Pro が予期しない動作をする原因となります。

エラー メッセージ

メッセージ: MapInfo Pro を起動できません

MapInfo Pro のインストール時に .NET のインストールがキャンセルまたは中断されると、.NET が正しくインストールされないことがあります。MapInfo Pro のインストールを再度試みた後で起動しない場合、"MapInfo Pro を起動できません" というメッセージが表示されます。

MapInfo Pro は .NET を必要とします。そのため、MapInfo Pro のインストール ウィザードは MapInfo Pro ソフトウェアの前に .NET をインストールします。.NET のインストールが中断またはキャンセルされると、MapInfo Pro のインストール ウィザードがキャンセルされます。その後、

MapInfo Pro のインストール ウィザードを再度実行すると、.NET は (インストールが中断またはキャンセルされたにもかかわらず) マシンにインストール済みと見なされて、MapInfo Pro ソフトウェアを起動して実行することができなくなります。

最初に .NET をインストールしようとしたときに設定されたレジストリ キーがマシンにそのまま残っているため、それ以降に .NET をインストールしようとしても .NET はインストール済みと見なされます。このため、MapInfo Pro のインストール ウィザードは .NET がインストール済みであると判断します。

この問題を解決し、.NET をマシンにインストールするには、**Microsoft .NET Framework 4.6.1** を Microsoft の Web サイトからダウンロードしてインストールする必要があります。

メッセージ: 要求された機能は、アクセス可能でないネットワークリソースに存在します。

以下のメッセージが表示された場合は、Windows 7 で、管理者権限を持たずにインストールが行われたことが原因です。

要求された機能は、アクセス可能でないネットワーク リソースに存在します。

以下の方法で、管理者権限を使用してインストールを再実行してください。

- 実行可能ファイルを右クリックし、ポップアップメニューから [管理者として実行] を選択して、インストールを管理者権限で実行します。インストールを許可するかをたずねるメッセージが表示されます。[許可] または [はい] をクリックして次に進みます (何も応えずタイムアウトになると、インストールが中断されます)。
- 必要な権限を持つアカウントでインストールするために、システム管理者にインストールを再実行してもらいます。

メッセージ: ODBC エラー

PostgreSQL Unicode ODBC ドライバを [Use Declare/Fetch] オプションを無効にして使用すると、以下のエラーが発生する場合があります。

```
ODBC Error: ODBC RC=-1, ODBC SQLState=HY001, DBMS RC=4, DBMS Msg=Out of memory while reading tuples.
```

ドライバが結果セット全体をバッファリングするように、[Use Declare/Fetch] オプションはデフォルトで無効になっています。大きなテーブルの場合は、これによって Windows メモリ リソースを使い果たしてしまう可能性があります。この問題を修正するには、[Use Declare/Fetch] オプシ

ンを有効にして、ドライバが自動的にカーソル宣言と Fetch を使用して SELECT 文を処理し、キャッシュに 100 行を保持するようにします。

[Use Declare/Fetch] オプションを有効にするには

1. ODBC アドミニストレータを起動します。

ODBC アドミニストレータは、Microsoft から無料で配布される、ODBC ドライバおよびデータソースを管理するためのユーティリティです。このユーティリティは、Windows の windows\system32 directory ODBCADM32.EXE、または Windows のコントロール パネルの **[管理ツール]** から実行できます。

2. データソースを選択して [構成] をクリックし、[PostgreSQL ODBC ドライバ (psqlODBC) セットアップ] ダイアログを開きます。

3. [データソース] をクリックして [高度な設定] ダイアログを開きます。

4. [Use Declare/Fetch] チェック ボックスを選択して [適用] をクリックします。

5. [保存] をクリックして [ODBC アドミニストレータ] ウィンドウを閉じます。

データソースとドライバに関するその他の設定が必要な場合は、データベース管理者 (DBA) に相談してください。データベース管理者に、データソースへのアクセスに必要な設定を依頼します。

[Use Declare/Fetch] オプションの詳細については、[PostgreSQL の Web サイト](#)で「[psqlODBC Configuration Options](#)」の下の「Use Declare/Fetch」の項を参照してください。

著作権に関する通知

© August 2018 Pitney Bowes Software Inc.

このドキュメントに記載される情報は、将来予告なしに変更されることがあり、ベンダーまたはその販売代理店の見解を示すものではありません。このマニュアルを MapInfo Corporation, One Global View, Troy, New York 12180-8399 の書面による許諾なしに複製することは禁じられています。

© 2018 Pitney Bowes Software Inc. All rights reserved. Pitney Bowes Software Inc. は Pitney Bowes Inc. の完全な子会社です。Pitney Bowes、会社ロゴ、MapInfo、Group 1 Software および MapInfo Pro は Pitney Bowes Software Inc. の登録商標です。その他すべての商標および登録商標に関する権利はそれぞれの所有者に帰属します。

Pitney Bowes Software Inc. オフィスへのお問い合わせ先については、
<http://www.pitneybowes.com/us/contact-us.html> をご覧ください。

© 2018 OpenStreetMap コントリビュータ、CC-BY-SA; OpenStreetMap
<http://www.openstreetmap.org> (ライセンスは www.opendatacommons.org/licenses/odbl から入手可能) および CC-BY-SA を参照してください。
<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/2.0>

libtiff © 1988-1997 Sam Leffler, © 2018 Silicon Graphics International, formerly Silicon Graphics Inc. All Rights Reserved.

libgeotiff © 2018 Niles D. Ritter.

Amigo, Portions © 1999 3D Graphics, Inc. All Rights Reserved.

Halo Image Library © 1993 Media Cybernetics Inc. All Rights Reserved.

Portions thereof LEAD Technologies, Inc. © 1991-2018. All Rights Reserved.

Portions © 1993-2018 Ken Martin, Will Schroeder, Bill Lorensen. All Rights Reserved.

ECW by ERDAS © 1993-2018 Integraph Corporation (Hexagon Geospatial AB の一部門) および同社のサプライヤ。All rights reserved.

Portions © 2018 Integraph Corporation (Hexagon Geospatial AB の一部門)。All Rights Reserved.

MrSID、MrSID Decompressor および MrSID ロゴは、Celartem 社 LizardTech 部門の商標で、ライセンスを受けて使用しています。このコンピュータ プログラムの一部の著作権は、Celartem Company の子会社 LizardTech (copyright © 1995-1998) およびカリフォルニア大学にあるか、米国における特許番号5,710,835で保護され、ライセンスを受けて使用しています。All rights reserved. MrSID は、米国および国際特許・著作権条約で保護され、諸外国で特許申請中です。無許可での使用や複製を禁止します。

Contains FME® Objects © 2005-2018 Safe Software Inc. All Rights Reserved.

Amyuni PDF Converter © 2000-2018, AMYUNI Consultants – AMYUNI Technologies Inc. All rights reserved.

Civic England - Public Sector Symbols Copyright © 2018 West London Alliance.同社の記号は無償で使用できます。この記号を他のアプリケーションで使用するために入手する方法など、詳細については、以下の West London Alliance Web サイトを参照してください。

<http://www.westlondonalliance.org>

© 2006-2018 TomTom International BV.All Rights Reserved.同社のサイトの内容は、Tele Atlas が独占するものであり、TomTom が所有またはライセンス契約する著作権保護権およびその他の知的所有権の対象となります。この内容の使用は、使用許諾契約の条項の対象となります。この内容を無断でコピーまたは開示することを禁じます。

Microsoft Bing: Bing サービスのすべてのコンテンツの著作権© 2018 は Microsoft Corporation (One Microsoft Way, Redmond, WA 98052, USA) および同社のサプライヤにあります。All rights reserved.Microsoft またはそのサプライヤは Bing のサービスおよびコンテンツの名称、著作権、およびその他の知的所有権を保有します。Microsoft、Windows、Windows Live、Windows ロゴ、MSN、MSN ロゴ (バタフライ)、Bing、およびその他の Microsoft の製品とサービスも米国およびその他の国における Microsoft の商標または登録商標です。

この製品に付属している 7-Zip は GNU Lesser General Public License Version 3 (2007 年 6 月 29 日) および unRAR Restriction に基づきライセンスされています。ライセンスは <http://www.7-zip.org/license.txt> からダウンロードできます。GNU ライセンスは <http://www.gnu.org/licenses/lgpl.html> からダウンロードできます。ソースコードは <http://www.7-zip.org> から入手可能です。

ここに記載される製品名は、各メーカーの商標である場合もあり、ここではそのように認識されます。商標名は、商標所有者の利益となるように編集上使用されており、商標を侵害する意図はありません。



3001 Summer Street
Stamford CT 06926-0700
USA

www.pitneybowes.com